

「自由」で「自分らしい」ものと感じている。

一方で『我の人』には、現在一番欲しいものとして、自分ならではの生きがいや、精神的な柱となるものを挙げる人が多く、対人関係のしがらみやわずらわしさからの『自由』は、孤立と胥中合わせであることが示されている。

「生きがいや精神的な柱となるもの」は必ずしも「人」である必要はない。しかし、『我』の人にとつて、周囲の人と良好な關係を築くことは、自分自身の能力を引き出し、活かしていく上でも有効である。人との関わりを通して新たな「自分」を発見したり、自らの生き方や価値観を見直す経験は必ずしも「自分らしさ」を阻害するものではなく、むしろ促進するものではないだろうか。

『我』の人」の「自分は自分、他人は他人」という、一見、人に対して無関心な姿勢は、周囲の人との摩擦を回避しようとする傾向の表れでもある。「ものを買うのを我慢しても、コミュニケーション費用は削れない」と考える人の少なさからも、『我』の人、つまり、自己と他者との間に、積極性や関心の低さがあることがわかる。自分の価値観を主張しつつ、周囲の人との良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけることが、『我』の人の強みを活かすことにもつながるのではないだろうか。

「明」を自ら問い続ける

『明』の人は、自分自身をよく理解し、自分の価値観に従つて主体的に生きており、人づきあひに対しても積極的である。幸福感が高く、現在の生き方に対する自己評價も高い。非の打ち所のない、理想的な生き方のように思われる。

そんな『明』の人に課題があるとすればそれは「理想的であること、あらうとする」ではないだろうか。

『明』の人は、自分の価値観に従って主体的に生きる一方で、人から認められ、評価されることを強く求めるという側面を持つてゐる。人の声に耳を傾け、その評価を得ようとすることは、向上心と成長につながる一方で、意識的・無意識的に周囲の人や集団の意図に沿うような判断・行動の選択を招く危険を孕んでいる。「サラリーマンであれば、組織の指示に従うのは当然である」と考える人が他クラスターと比較して多いという結果は、『明』の人の過剰ともいえる適応力の高さを物語っているといえるよう。現在の生き方に対する自己評価についても同様である。迷いがないこと、価値観が定まっていることは、裏を返せば、現在の自分に対して疑問を抱かないということでもある。

『明』の人の構成メンバーに着目する

と20代・60代の自分自身の生活や人生に対する裁量性が高い年代が占める割合が高くなっている。最も割合が低いのは30代でこの年代には『迷』の人が多い。それはこの年代がさまざまな転機を経験する時期であり、それまでの生き方や価値観が揺さぶられ、再構築を迫られる時期であるためと考えられる。「迷うこと」自体は決して否定すべきことではなく、むしろ必要なのプロセスであるといえよう。

周囲の期待に応えること、理想的であること」に重きを置きすぎて、自分自身の真の満足や幸福を見失ってはいないか。『明』の人は、つねに自分自身に対して問い続ける必要があるのではないだろうか。

「迷」「従」「我」「明」の築く豊かな未来

「個」のレベルで、つねに「明」の状態にあることが理想とは限らないということは、「社会」のレベルでもあてはまる。

簡単に答えを出すことにためらいを感じる『迷の人』。人と人とのつながりを重視し、流れに身を任せることを知る『従』の人。人や社会の価値観にとらわれることなく、自らの道を追求める『我』の人。そして、適応力に長け、前向きに生きる『明』の人。

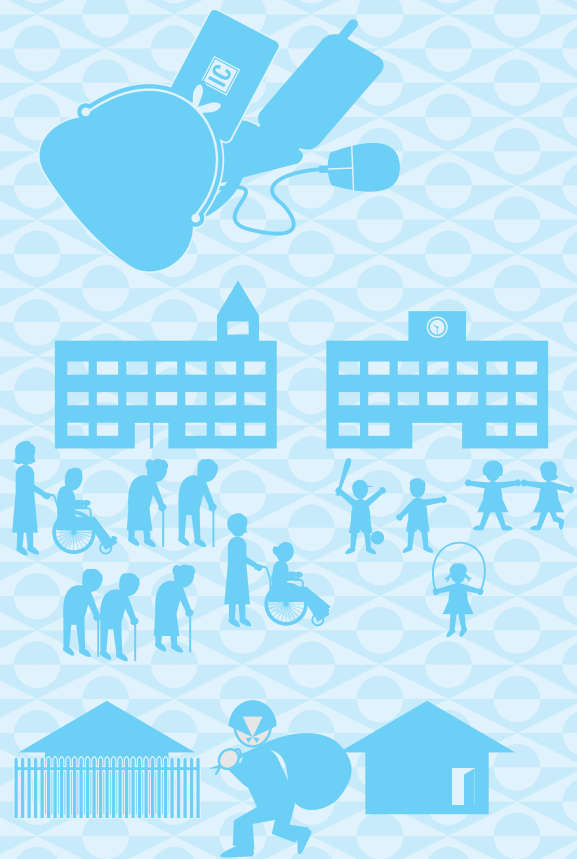
尺度項目の出典論文

- 榎本博明・林洋一・鈴木貢(1986)青年期における自己実現傾向について(1) - 自己実現質問紙作成の試み - 日本社会心理学会 第27回大会発表論文集、131-132.
- 加藤隆雄・高木秀明(1980)青年期における独立意識の発達と自己概念との係 教育心理学研究、28、336-340.
- 久世敏雄・和田実・郎崎清ほか(1988)現代青年の規範意識と私生活主義について 名古屋大学教育学部紀要 - 教育心理学号 -, 35、21-28.
- 斎藤和志・中村雅彦(1987)対人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学号)、34、97-109.
- 坂崎恒夫(1999)成人キャリア成熟尺度(ACMS)の信頼性と妥当性の検討 愛知教育大学研究報告、48、115-122.
- 菅原健介(1984)自意識尺度(Self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究、55、184-188.
- 根野瀬(1988)社会的技能研究の統合的アプローチ - I - SSIの信頼性と妥当性の検討 - 関西大学大学院人間科学、31、1-16.
- 山岡重行・押見親男(1986)新ユニークネス尺度の作成と検討 日本グループ・ダイナミックス学会 第34回大会発表論文集、219-220.
- 山口勲・岡隆・丸岡吉人ほか(1988)社会的性の推測に関する研究(I) - 集団主義的傾向との関連について - 日本社会心理学会 第29回大会発表論文集、176-177.

同じ社会の同じ時代を生きていても、それぞれを描く未来は少しずつ異なっている。『迷』の人が感じている、不透明な未来に對する不安。『従』の人の持つ人と人とのつながりへの期待。『我』の人の「個」が重視される社会への希望。そして、『明』の人の、自ら未来を切り拓いていくという意識。それぞれがそれぞれのより良い生き方を追求する中で、多様な価値観がせめぎあい葛藤しながら紡ぎだされていく社会こそ、真に豊かな社会といえるのではないだろうか。

日本人の生き方・暮らし方

HR―生き方リサーチデータ―《調査結果の抜粋》



H R I では、人々の暮らしと価値観を知り、それらを近未来社会の展望につなげるため、2001年度より3年間、「シニア世代（50～70代）」「ミドル世代（35～49歳）」「ヤング世代（20～34歳）」それぞれについて、ライフスタイル調査を実施してきた。

今年度は、これらの調査結果を参考にしつつ、日本人のライフスタイルの全体像を把握することを目的として、すべての世代を対象とした世代横断型の調査を実施した。

して、すべての世代を対象とした世代横断型の調査を実施した。

● 調査方法

WEBアンケート(50・60代では、
郵送調査も並行して実施)

● 調査期間

2004年10月12日
～
11月3日

● 調査対象

全国の20～69歳の男女

● サンプル数

WEB調査：1000サンプル
郵送調査：423サンプル

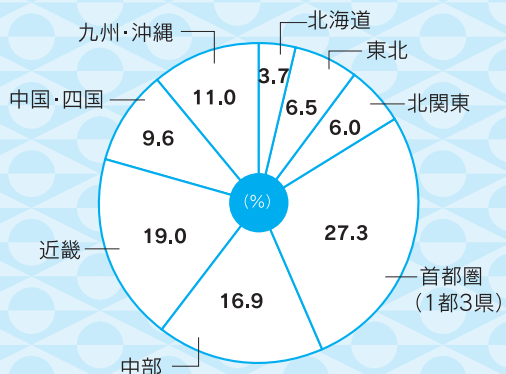
《性別·年齡》

					(人)
		男性	女性	小計	合計
WEB調査	20～29歳	100	100	200	1000
	30～39歳	100	100	200	
	40～49歳	100	100	200	
	50～59歳	100	100	200	
	60～69歳	100	100	200	
調査郵送 ㊦	50～59歳	91	112	203	423
	60～69歳	106	114	220	

■ 郵送調査による50～60代のデータは参考データとして挿入。(該当データに㊟を表示)

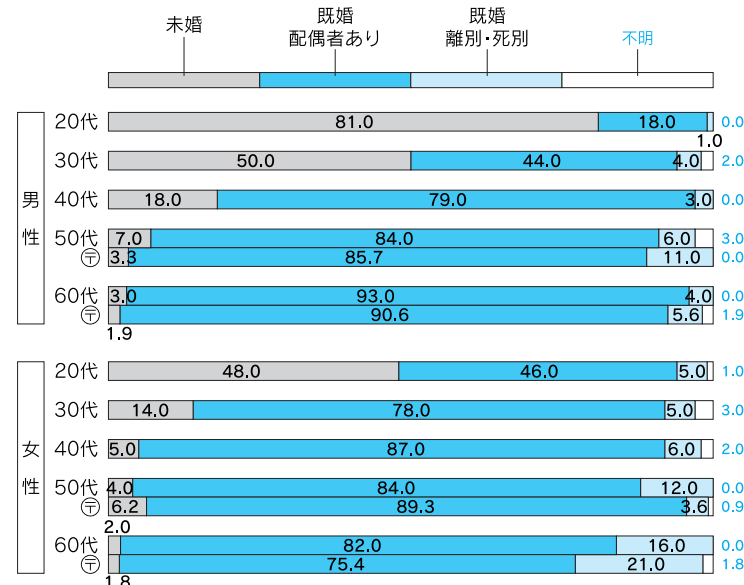
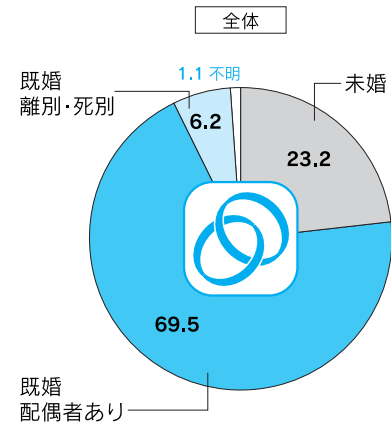
■「全体」および「性別」データには郵送調査のデータは含まない。

《居住地》

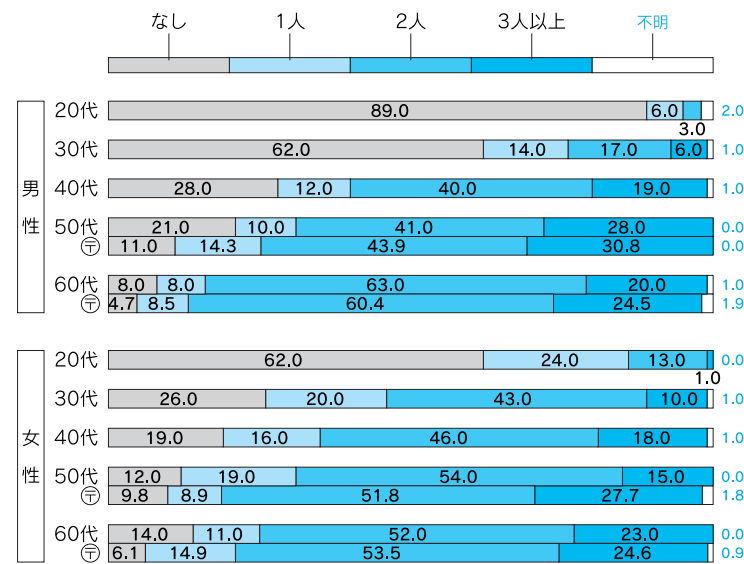
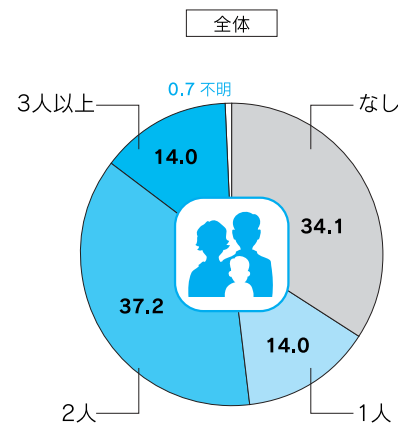


(単位: %)

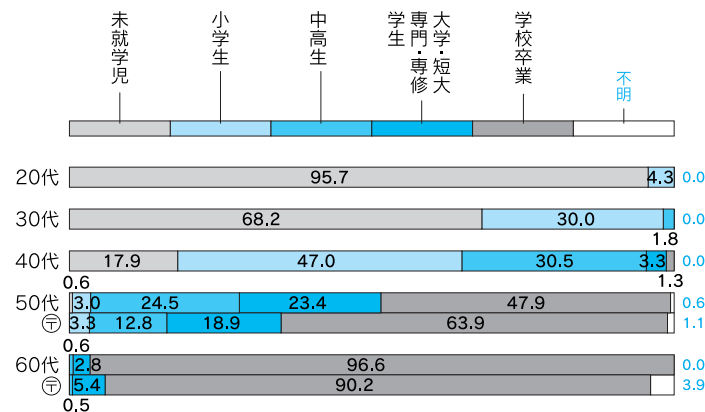
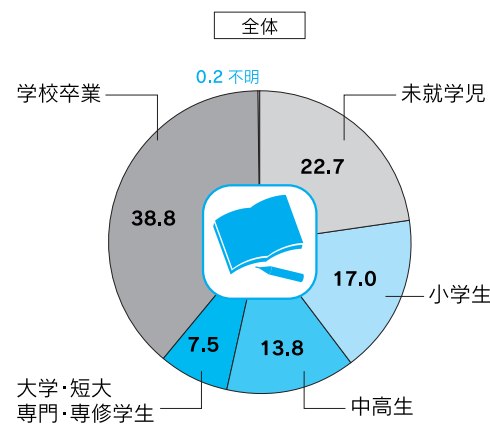
◆ 婚姻状態 ◆



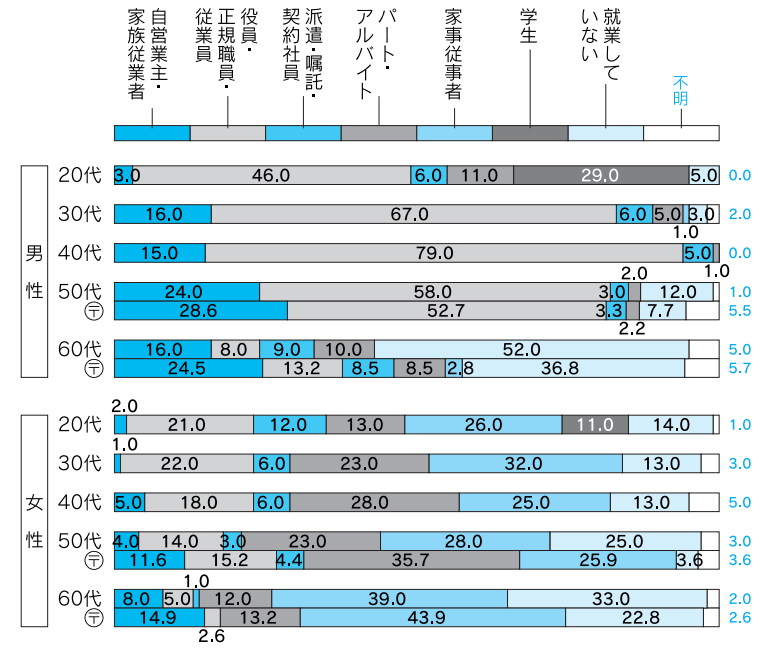
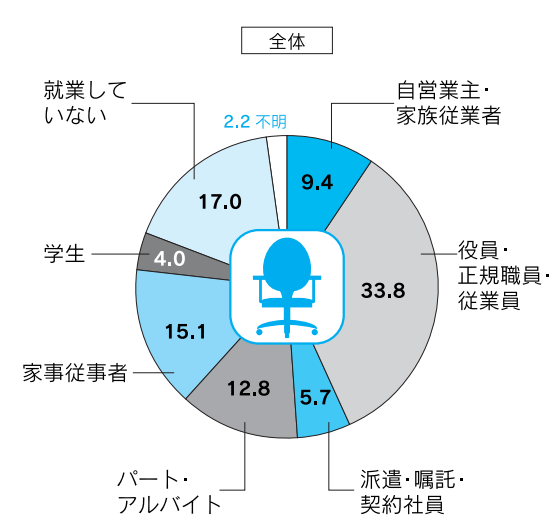
◆ 子どもの有無 ◆



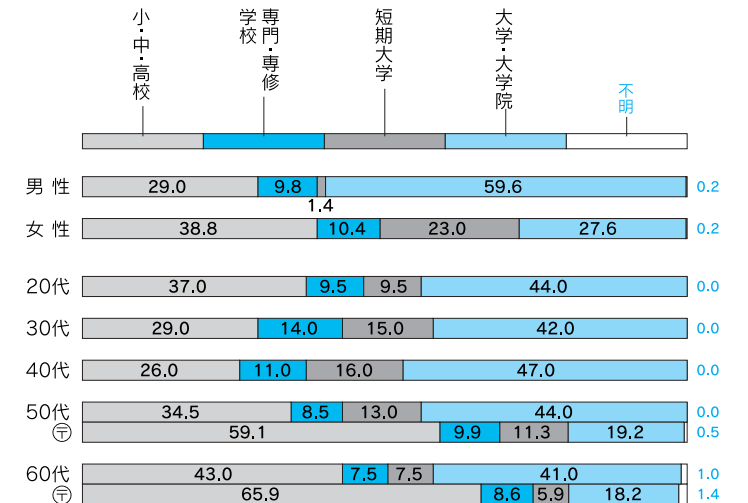
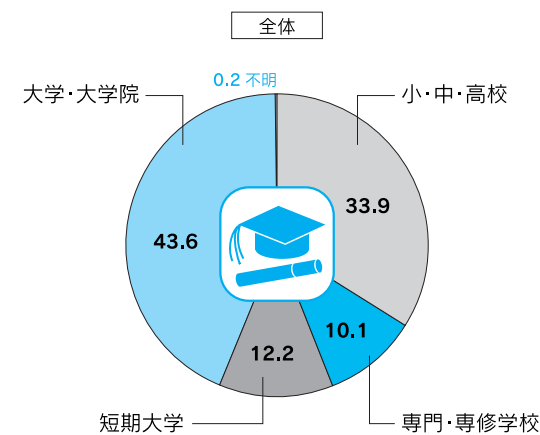
◆ 一番下の子どもの就学状況 ◆



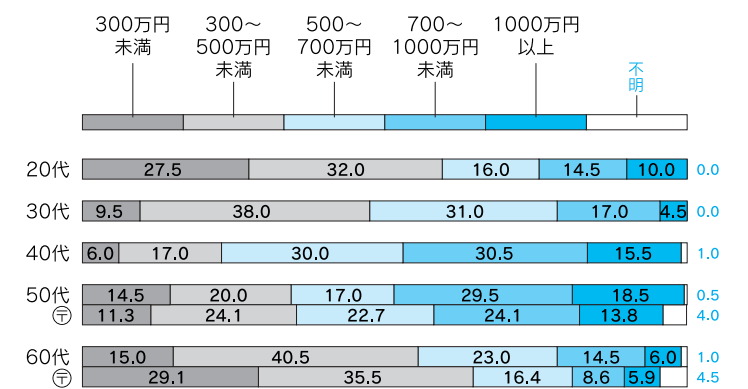
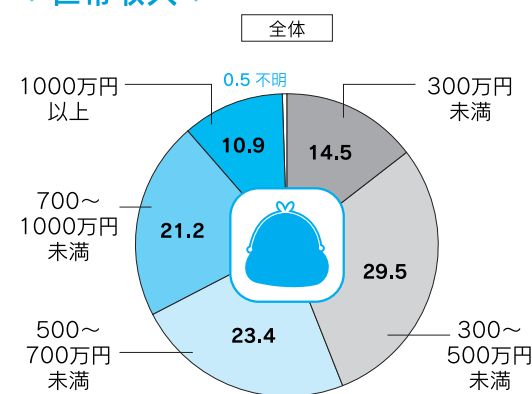
◆ 就業状態 ◆



◆ 最終学歴 ◆

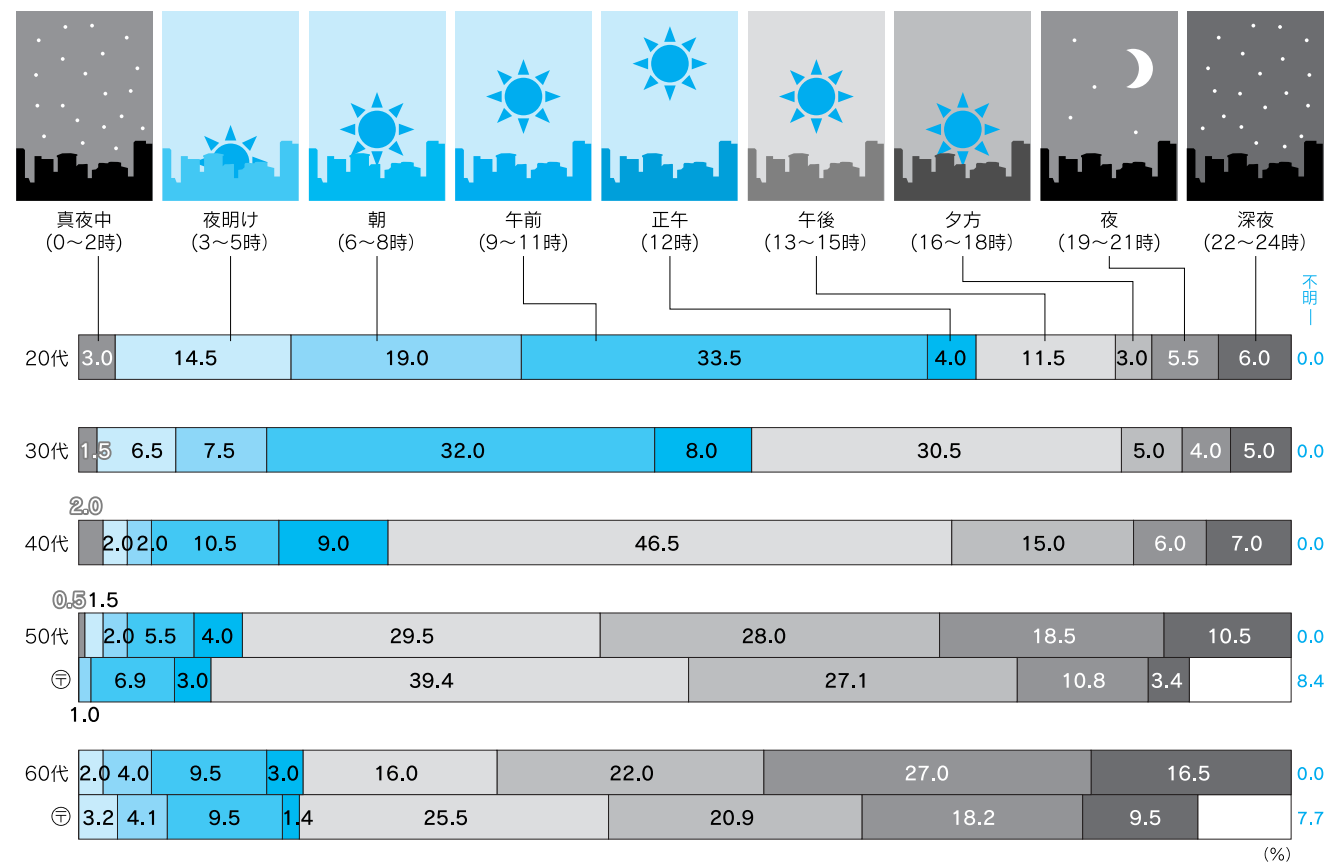


◆ 世帯収入 ◆



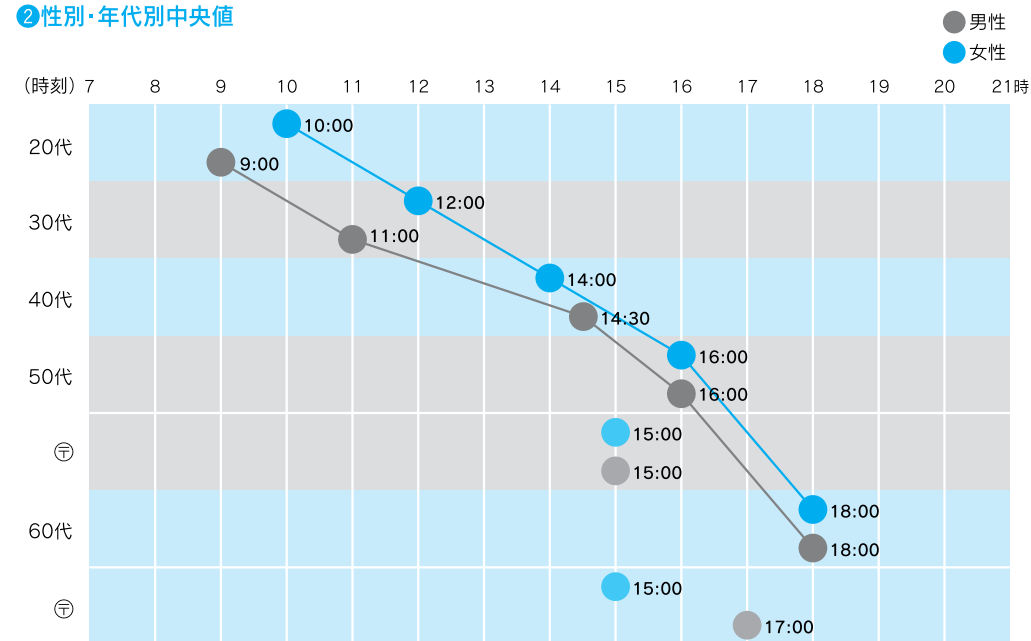
あなたの人生を午前0時からの24時間の時計の時刻に表すと、現在のあなたは何時頃を生きていますか。

①年代別分布



人生を午前0時からの24時間の時計に表した場合の「現在の時刻」を尋ねたところ、年代による顕著な違いが表れた。20代では、「午前(9～11時)」が33.5%と最も多く、0時から午前11時までの合計が全体の70.0%を占めている。30代では、「午前(9～11時)」の32.0%とともに「午後(13時～15時)」が30.5%と多くなっている。40代では0時～11時までの合計が減少し、「午後(13～15時)」という回答が46.5%を占めている。50代・60代では、さらに「午後(13～15時)」という回答が減少し、「夕方(16～18時)」と「夜(19～21時)」が多くなっている。

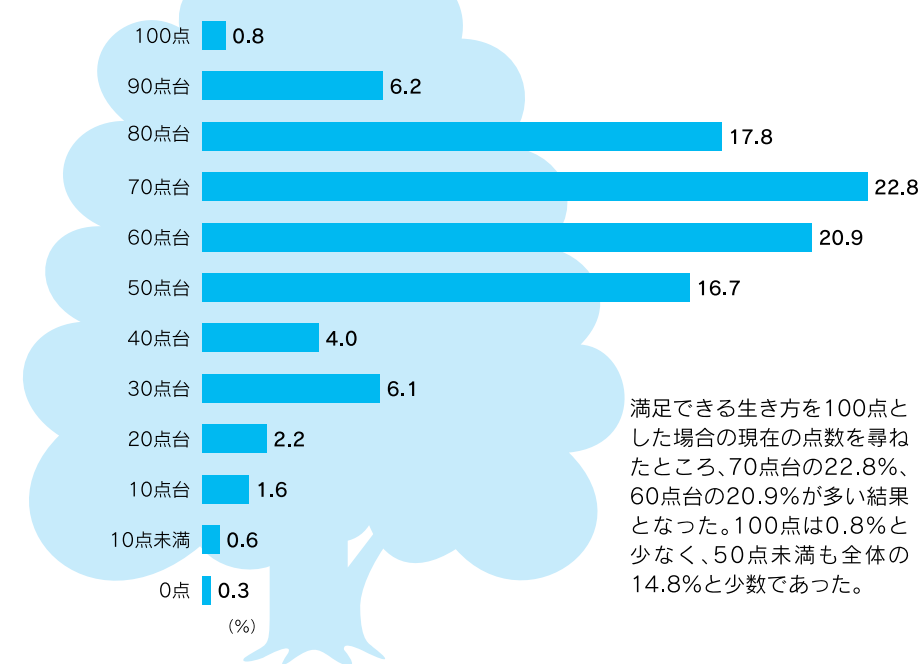
②性別・年代別中央値



男女別に各年代の中央値を比較した結果からは、年齢を経るにしたがって「現在の時刻」が午前から午後、夕方へと推移していく様子を読みとることができる。男性と女性を比較すると、30代までは男性のほうがやや早い時刻を回答しているのに対して、50代・60代では差が見られない。郵送調査による50代・60代はWEB調査による同年代よりも早い時刻を回答している。

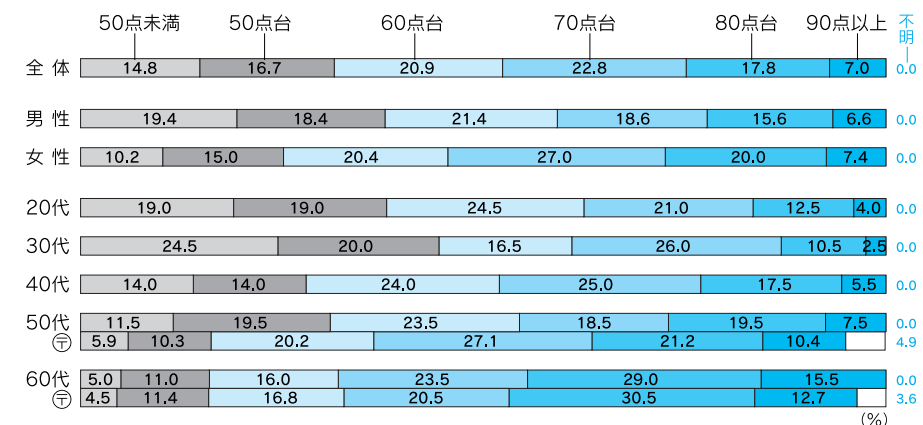
あなたが満足できる生き方を100点とすると、現在のあなたの生き方は何点でしょう。

①得点分布



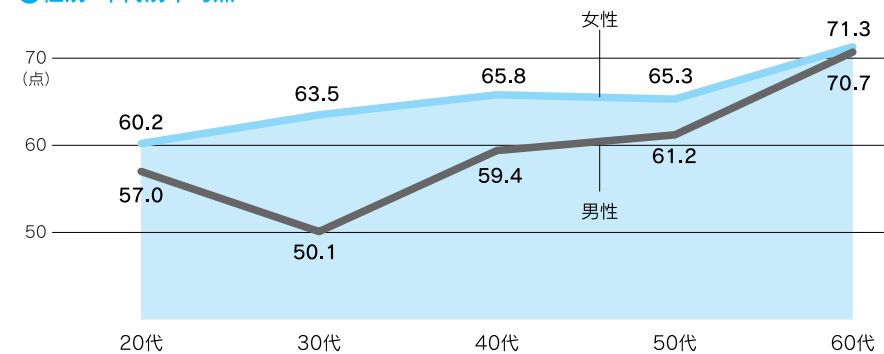
満足できる生き方を100点とした場合の現在の点数を尋ねたところ、70点台の22.8%、60点台の20.9%が多い結果となった。100点は0.8%と少なく、50点未満も全体の14.8%と少数であった。

②性別・年代別得点分布



男性と女性を比べると、女性では過半数が70点以上であるのに対して、男性では4割程度にとどまり、全体的に女性の点数のほうが高い結果となっている。年代別で見ると、とくに60代で高く、80点以上が4割以上を占めている。

③性別・年代別平均点



男女別に各年代の平均点を比較すると、どの年代でも女性のほうが男性より高い結果となっている。平均点の開きが最も大きいのは30代で、女性の平均点が63.5点であるのに対し、男性では50.1点と低い。

1

「いま」の生き方・暮らし方の

日本人は、自らの生き方・暮らし方をどのようにとらえているのだろうか。世代を超えて共通するもの、世代による差異はどのようなところにあるのか。現在の生き方に対する自分自身の評価や、人生における現在の位置づけ、現在欲しいものなどから、日本人の生き方・暮らし方の「いま」を探る。

現在のあなたの生活は、次のどのイメージに重なりますか。あなた自身の生活イメージに近いものを5つまでお選びください。

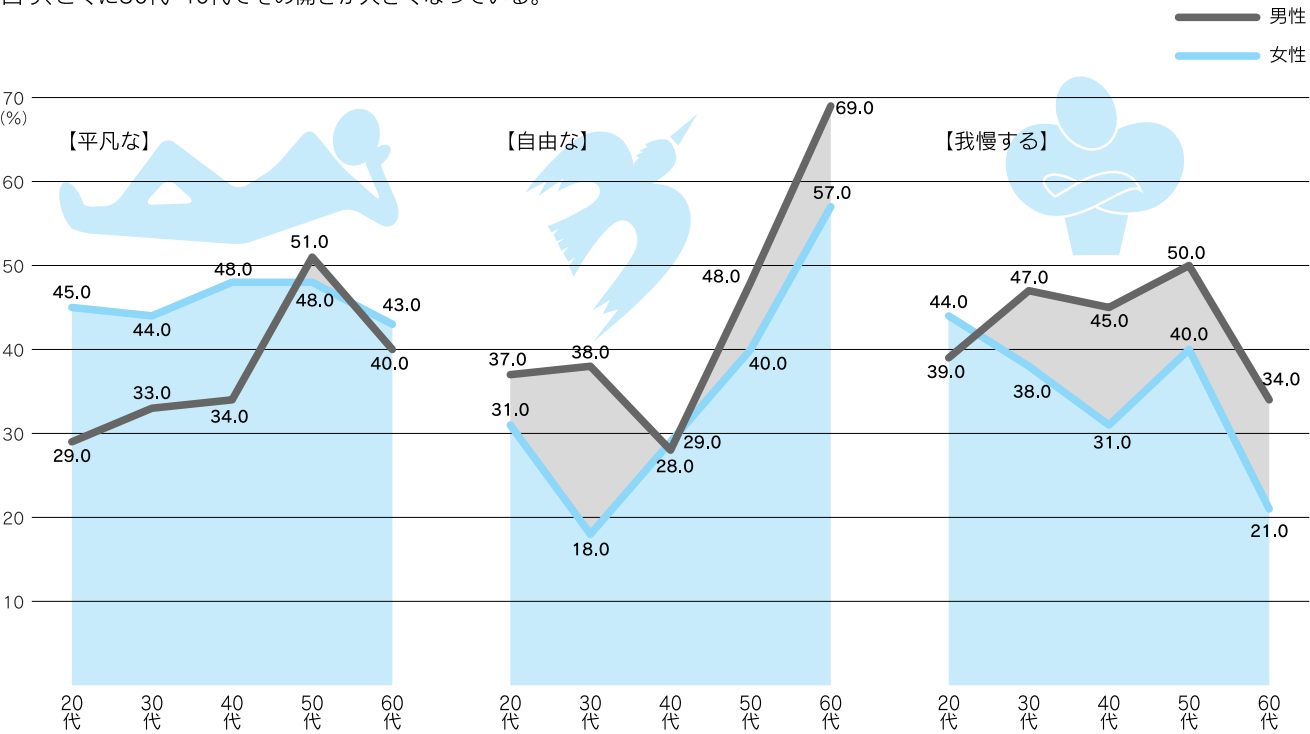
②性別・年代別上位項目

		全 体			男 性			女 性		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
20代		我慢する	気ままな	平凡な	不安な	我慢する	自由な	平凡な	我慢する	気ままな
		41.5	38.5	37.0	40.0	39.0	37.0	45.0	44.0	42.0
30代		我慢する	平凡な	気ままな	我慢する	自由な	不安な／気ままな	平凡な	幸福な	慌ただい／楽しい
		42.5	38.5	33.0	47.0	38.0	36.0	44.0	41.0	39.0
40代		自然体の	平凡な	我慢する	我慢する	自然体の	不安な／平凡な	平凡な	自然体の	自分らしい
		41.5	41.0	38.0	45.0	36.0	34.0	48.0	47.0	45.0
50代		平凡な	我慢する	自由な	平凡な	我慢する	自由な	平凡な	自分らしい	自然体の
		49.5	45.0	44.0	51.0	50.0	48.0	48.0	45.0	42.0
60代	⊕	平凡な	自分らしい	自然体の	自然体の	平凡な／自由な	—	平凡な	自分らしい	自然体の
		53.7	45.5	45.3	45.1	44.0	—	61.6	48.2	45.5
⊕		自由な	自然体の	自分らしい	自由な	自然体の	気ままな	自然体の／自由な	—	自分らしい
		63.0	58.5	50.0	69.0	60.0	51.0	57.0	—	53.0
⊕		自分らしい	自然体の	平凡な	自分らしい	平凡な	自由な	自分らしい	自然体の	平凡な／安定した
		62.5	51.8	51.4	55.7	51.9	48.1	69.1	59.6	50.9

男女別に各年代の1位から3位をまとめたところ、女性では「平凡な」が、男性では「我慢する」が、いずれの年代においても上位に挙げられた。また、年齢が高いほど「自由な」「自分らしい」といったイメージを選択する回答者が増えていることも注目される。

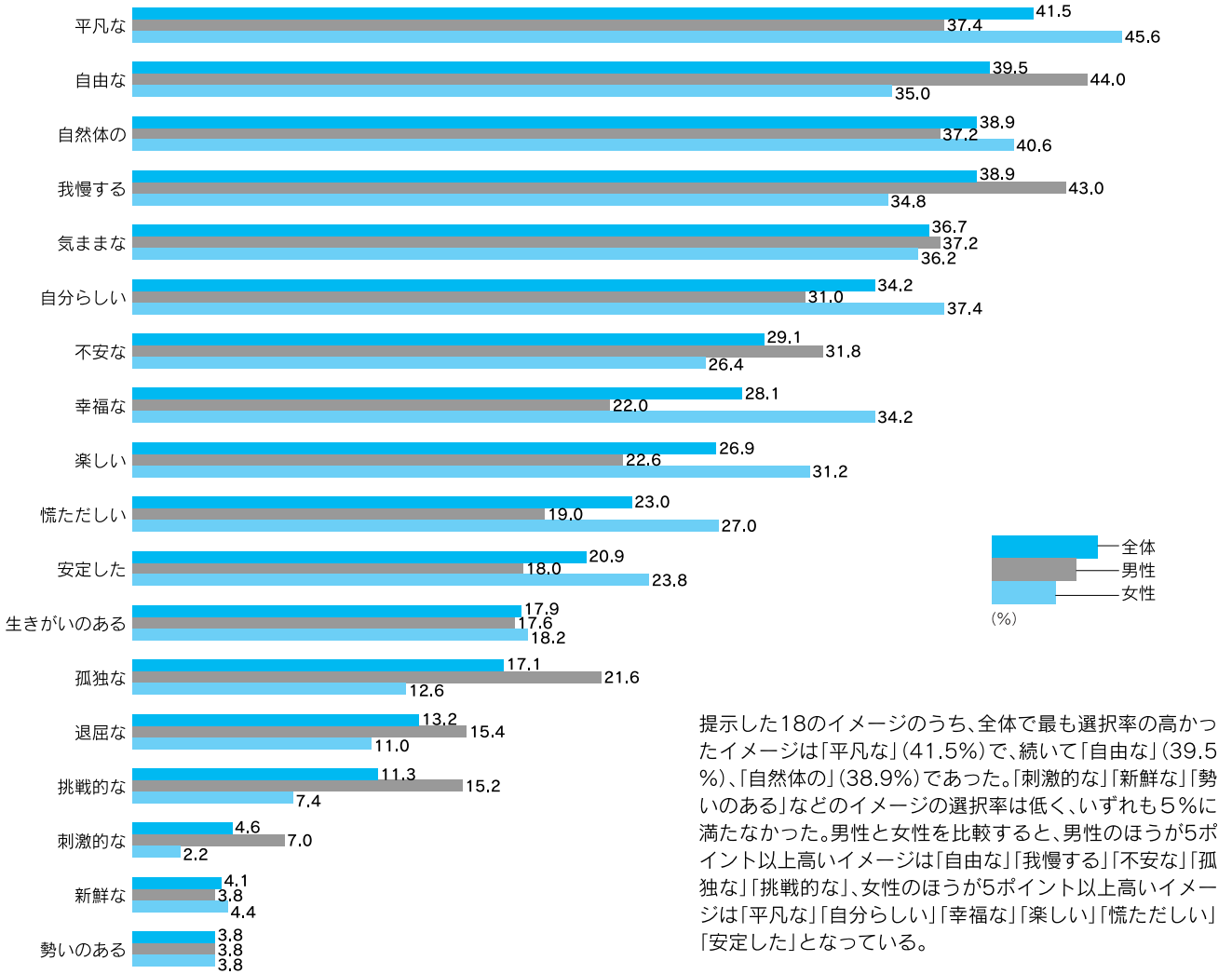
③性別・年代別選択率

いくつかの項目では、性別・年代別に特徴的な差異が見られた。男女とも、年齢が高いほど「自分らしい」「自由な」などを選択する割合が高く、60代では「我慢する」や「不安な」を選択する割合が著しく低くなっている。「幸福な」を選択する率は一貫して女性が男性を上回り、とくに30代・40代でその開きが大きくなっている。

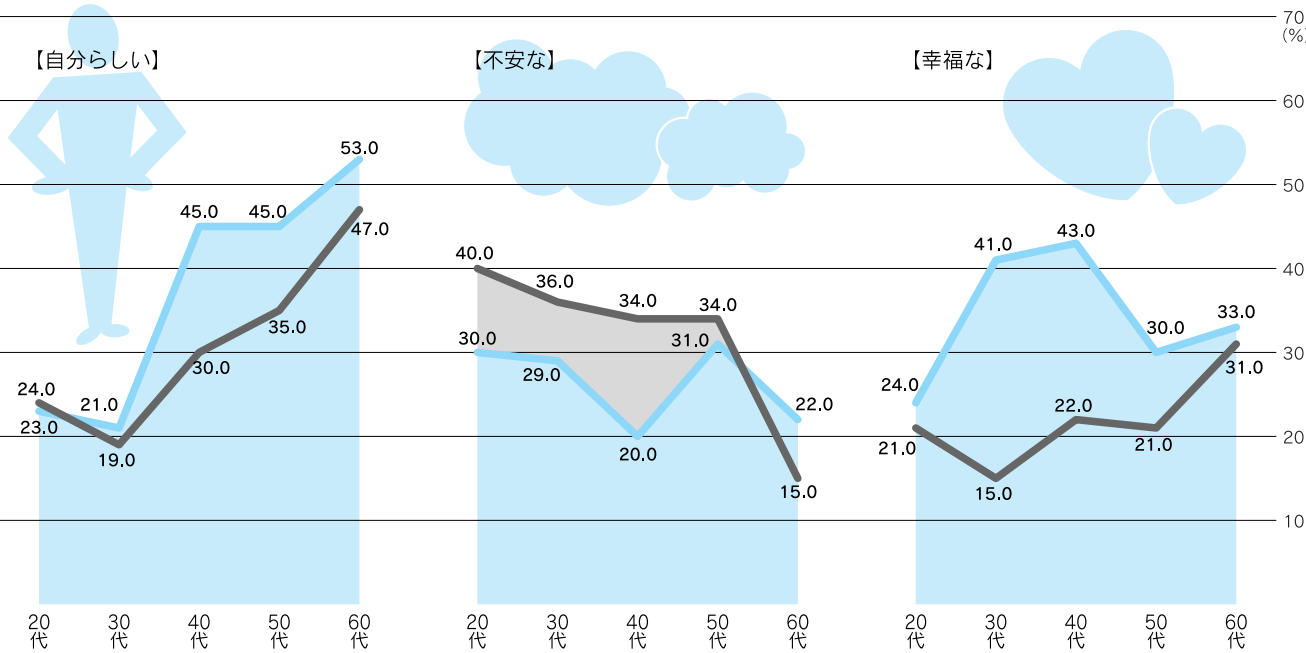


はみだしコメント 上の世代と私たちの世代は同じように年を重ねていくと思うけど、下の世代とは我慢の仕方が違う。私たちが区切りの世代。(47歳、女性)

①各イメージの選択率



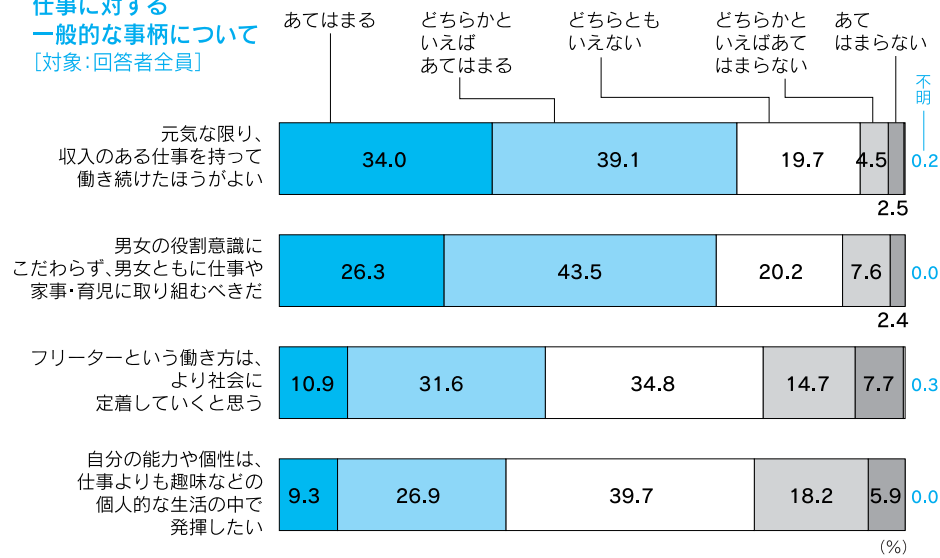
提示した18のイメージのうち、全体で最も選択率の高かったイメージは「平凡な」(41.5%)で、続いて「自由な」(39.5%)、「自然体の」(38.9%)であった。「刺激的な」「新鮮な」「勢いのある」などのイメージの選択率は低く、いずれも5%に満たなかった。男性と女性を比較すると、男性のほうが5ポイント以上高いイメージは「自由な」「我慢する」「不安な」「孤独な」「挑戦的な」、女性のほうが5ポイント以上高いイメージは「平凡な」「自分らしい」「幸福な」「楽しい」「慌ただい」「安定した」となっている。



はみだしコメント とにかく、いまは楽しい。仕事の大変さはもちろんあるけど、壁があるのは当然で、その壁を乗り越えるところが楽しい。(58歳、女性)

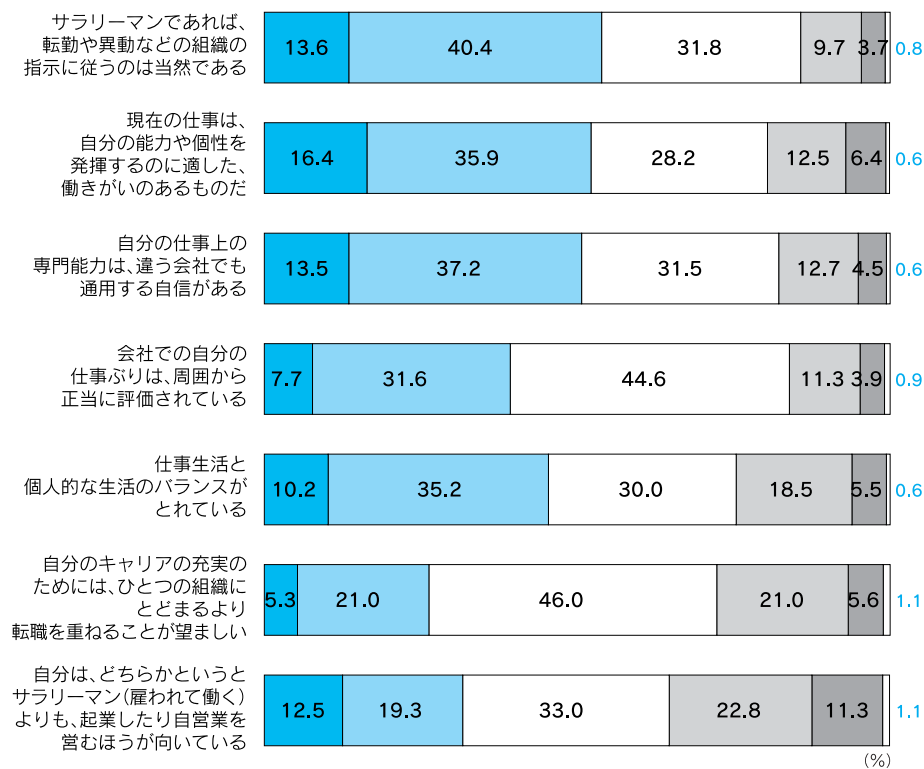
仕事に対する考え方を示した以下の項目は、それぞれあなたの考えにどの程度あてはまりますか。

仕事に対する一般的な事柄について
[対象:回答者全員]



仕事の現状について

[対象:現在収入のある仕事をしている人(n=639)のみ]



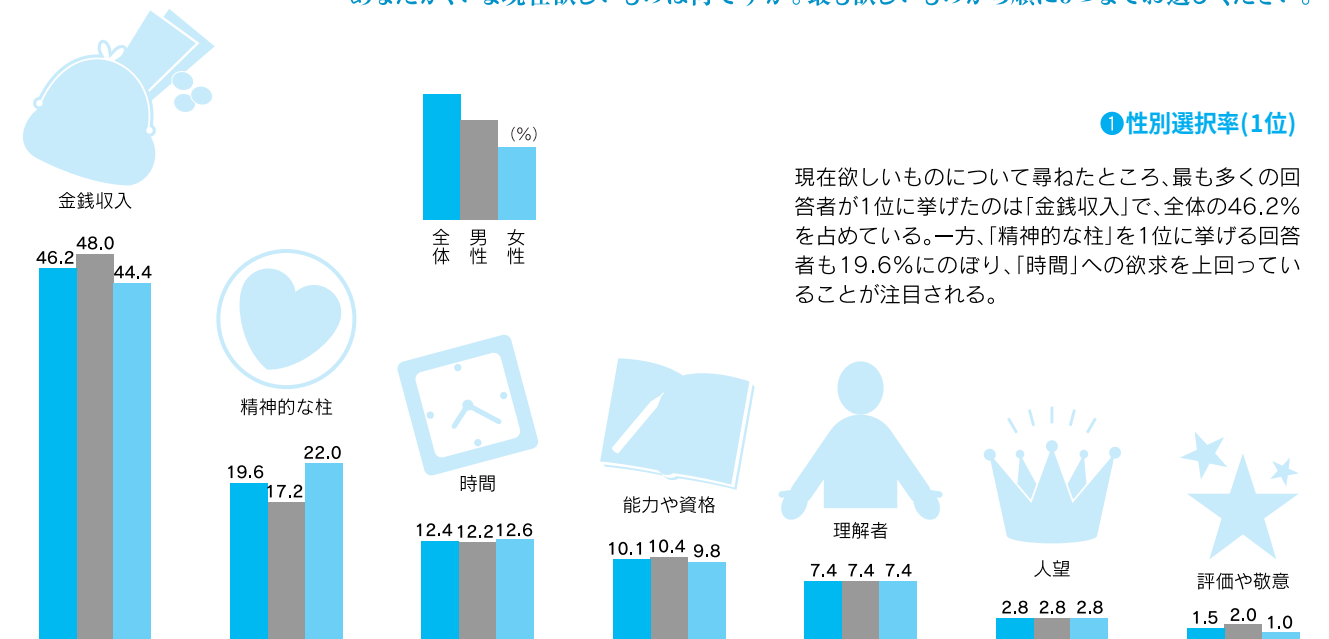
仕事に対する考え方や希望について尋ねたところ、7割以上の回答者が「元気な限り働き続けたほうがよい」と考えている(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計)ことが示された。また、「男女の役割意識にこだわらず、男女ともに仕事や家事・育児に取り組むべきだ」と考える回答者も7割近い。一方、「自分の能力や個性は、仕事よりも個人的な生活の中で発揮したい」と考える回答者は4割に満たない結果となった。

現在収入のある仕事をしている回答者のみを対象に、仕事の現状について尋ねた結果からは、約半数の回答者が「現在の仕事は働きがいのあるものだ」「仕事生活と個人的な生活のバランスがとれている」と考えていることが示された。「自分のキャリアの充実のためには、転職を重ねることが望ましい」という考え方については意見が分かれ、約半数の回答者が「どちらともいえない」としている。

「生き方・暮らし方の『いま』では、「現在欲しいもの」として、8割の回答者が「日常生活に経済的なゆとりを得るための金銭収入」を挙げた一方で、6割の回答者が「自分ならではの生きがいや、精神的な柱となるもの」を挙げていた。経済的な豊かさだけでなく、身近な生活の中に何を求め、どのように関わっていくかとしているのだろうか。

2日本人の価値観

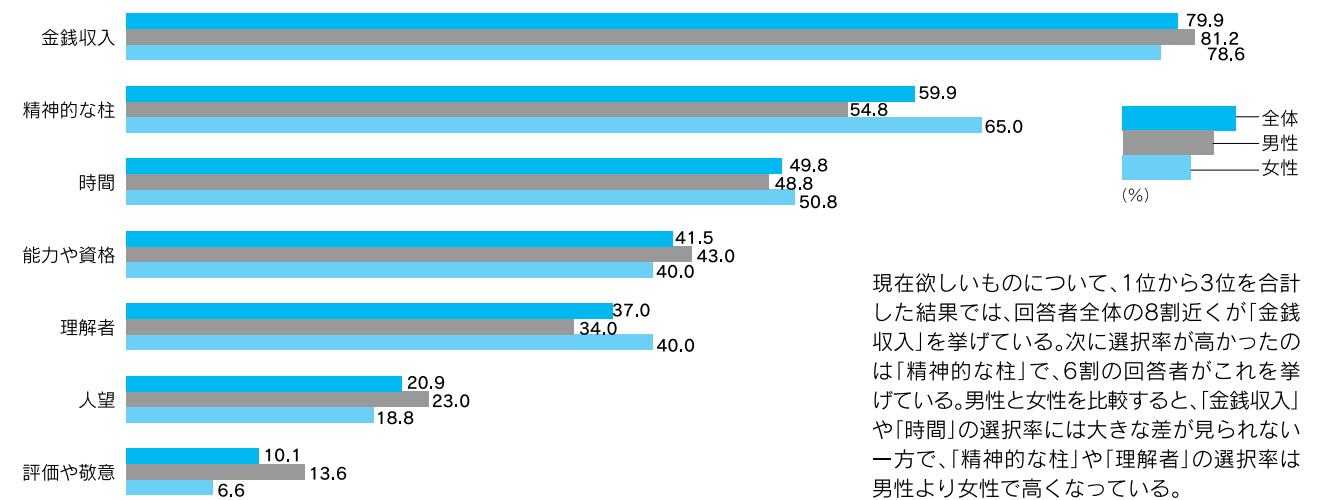
あなたが、いま現在欲しいものは何ですか。最も欲しいものから順に3つまでお選びください。



①性別選択率(1位)

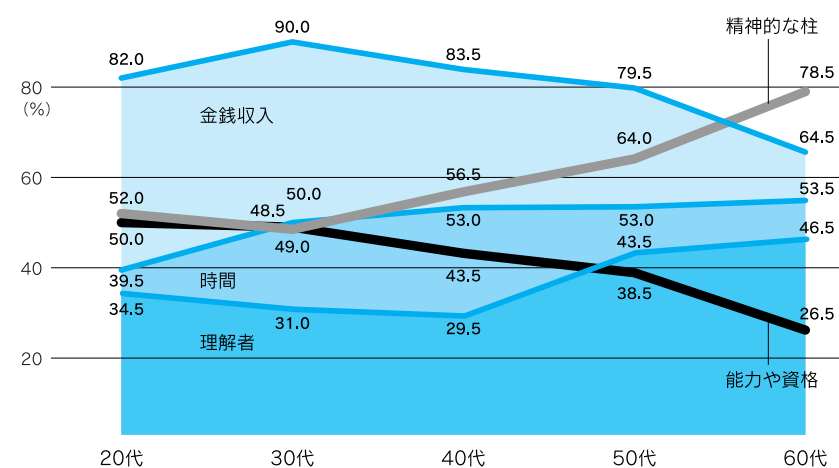
現在欲しいものについて尋ねたところ、最も多くの回答者が1位に挙げたのは「金銭収入」で、全体の46.2%を占めている。一方、「精神的な柱」を1位に挙げる回答者も19.6%にのぼり、「時間」への欲求を上回っていることが注目される。

②性別選択率(1位~3位積上げ)



現在欲しいものについて、1位から3位を合計した結果では、回答者全体の8割近くが「金銭収入」を挙げている。次に選択率が高かったのは「精神的な柱」で、6割の回答者がこれを挙げている。男性と女性を比較すると、「金銭収入」や「時間」の選択率には大きな差が見られない一方で、「精神的な柱」や「理解者」の選択率は男性より女性で高くなっている。

③年代別選択率(1位~3位積上げ)



年代間で比較すると、「金銭収入」や「能力や資格」に対する欲求は年齢が高い層では低下し、「精神的な柱」や「理解者」を求める傾向が強くなっている。「金銭収入」に対する欲求は30代で最も高く、60代では「精神的な柱」を下回る結果となった。

〈金銭収入〉
…日常生活に経済的なゆとりを得るための金銭収入

〈精神的な柱〉
…自分ならではの生きがいや、精神的な柱となるもの

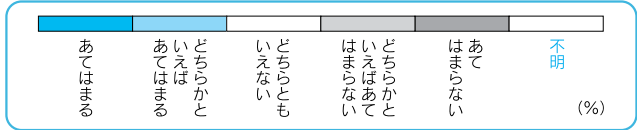
〈時間〉
…何かにじっくり取り組んだり、ゆっくり休んだりするための時間

〈能力や資格〉
…他人や組織をあてにしなくても自立して生きていける能力や資格

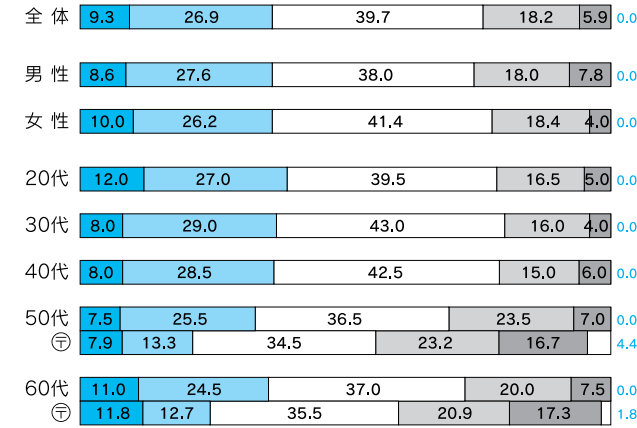
〈理解者〉
…自分の良い面、悪い面を含めて理解してくれる、良き理解者

〈人望〉
…周囲の人に認められ、信頼される人望

〈評価や敬意〉
…社会や組織などからの高い評価や敬意



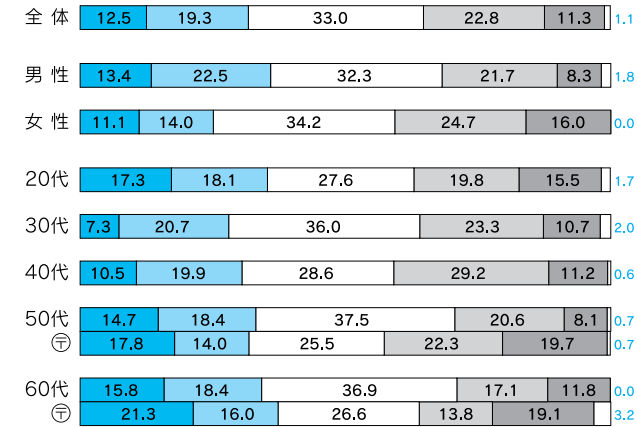
④自分の能力や個性は、仕事よりも趣味などの個人的な生活の中で発揮したい



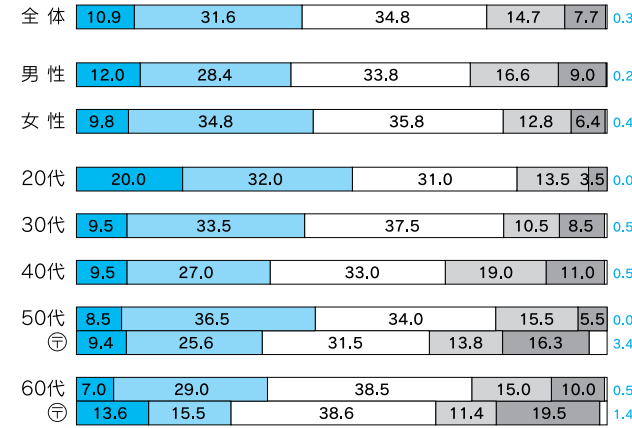
「元気な限り、収入のある仕事を持って働き続けたほうがよい」と考える人の割合には年齢間で差がなく、どの世代でも7割以上が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。とくに50代・60代では「自分の能力や個性は、仕事よりも趣味などの個人的な生活の中で発揮したい」に対して3割前後の回答者が「(どちらかといえば)あてはまらない」と答えており、仕事が能力や個性を発揮する重要な場としてとらえられていることが読みとれる。「男女の役割意識にこだわらず、男女ともに仕事や家事・育児に取り組むべきだ」という考え方に対しては性別や年代による差が見られるものの、全体の7割近い回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答している。

現在収入のある仕事をしている回答者を対象に尋ねた質問では、男性よりも女性で、また年代が高いほど、「現在の仕事は働きがいのあるものだ」「自分の仕事ぶりは正当に評価されている」「仕事と個人的な生活のバランスがとれている」など、仕事に対して肯定的なとらえ方をする回答者が多い結果となった。「キャリアの充実のためには、ひとつの組織にとどまるより転職を重ねることが望ましい」という考え方については、年代が高いほど「(どちらかといえば)あてはまらない」とする回答が多くなっている。

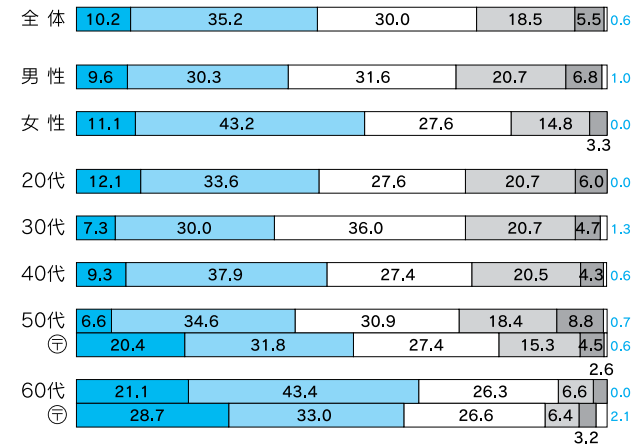
⑦自分は、どちらかというサラリーマン(雇われて働く)よりも、起業したり自営業を営むほうが向いている



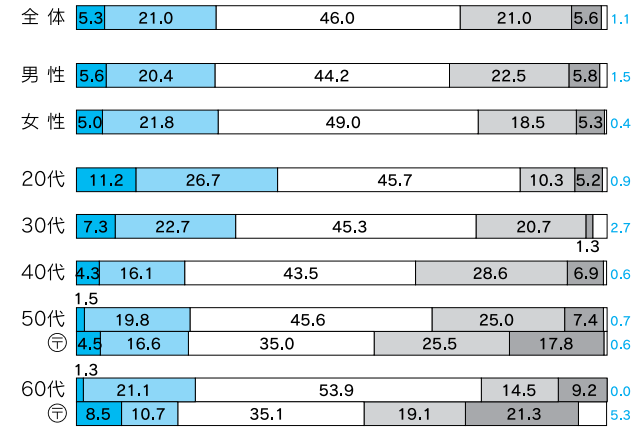
③フリーターという働き方は、より社会に定着していくと思う



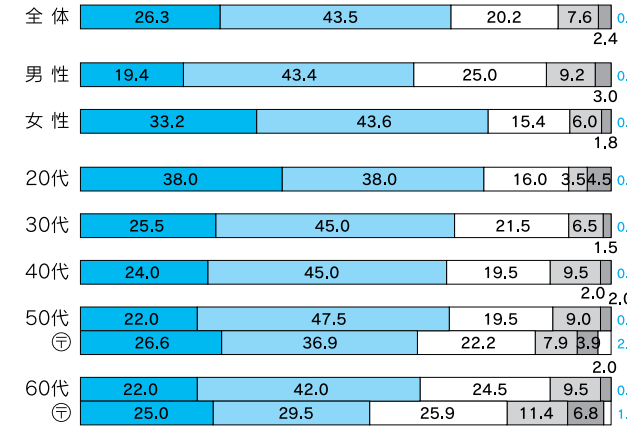
⑤仕事生活と個人的な生活のバランスがとれている



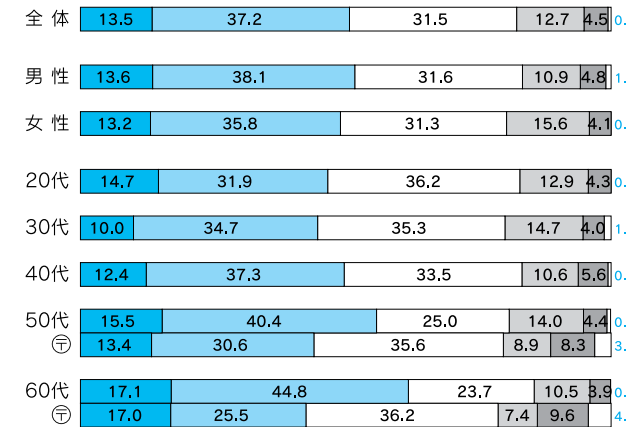
⑥自分のキャリアの充実のためには、ひとつの組織にとどまるより転職を重ねることが望ましい



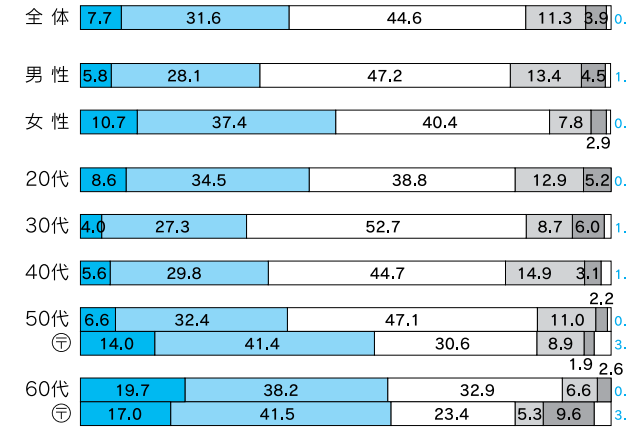
②男女の役割意識にこだわらず、男女ともに仕事や家事・育児に取り組むべきだ



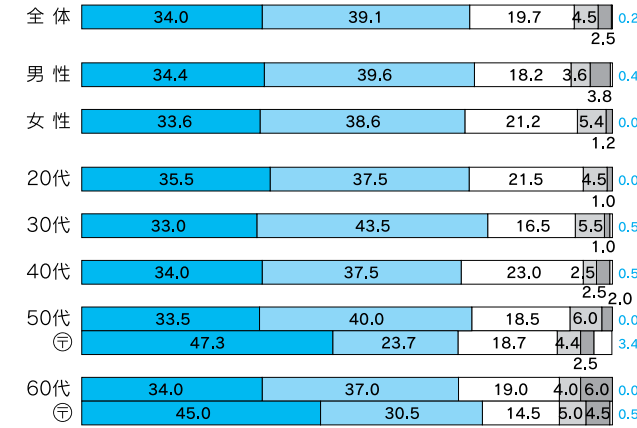
③自分の仕事上の専門能力は、違う会社でも通用する自信がある



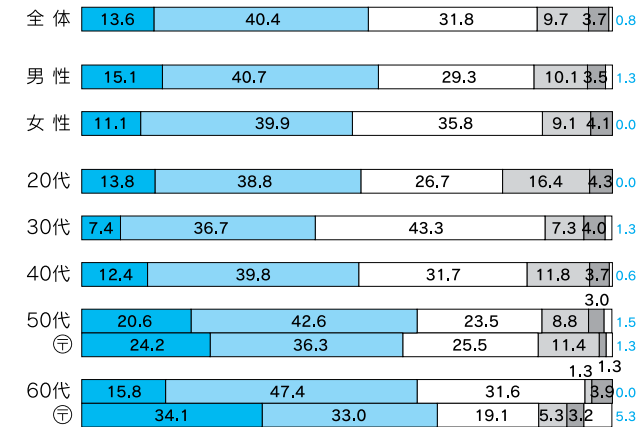
④会社での自分の仕事ぶりは、周囲から正当に評価されている



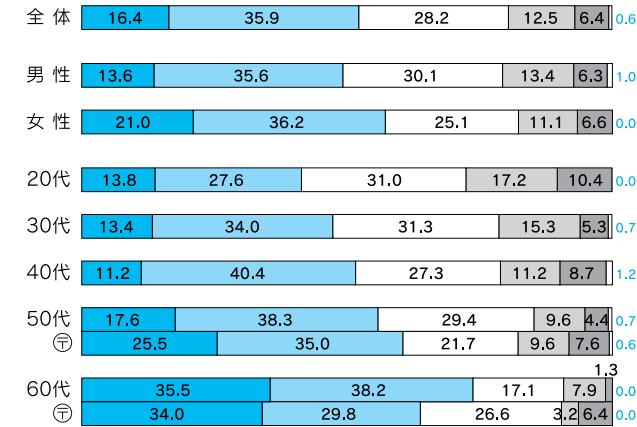
①元気な限り、収入のある仕事を持って働き続けたほうがよい



①サラリーマンであれば、転勤や異動などの組織の指示に従うのは当然である

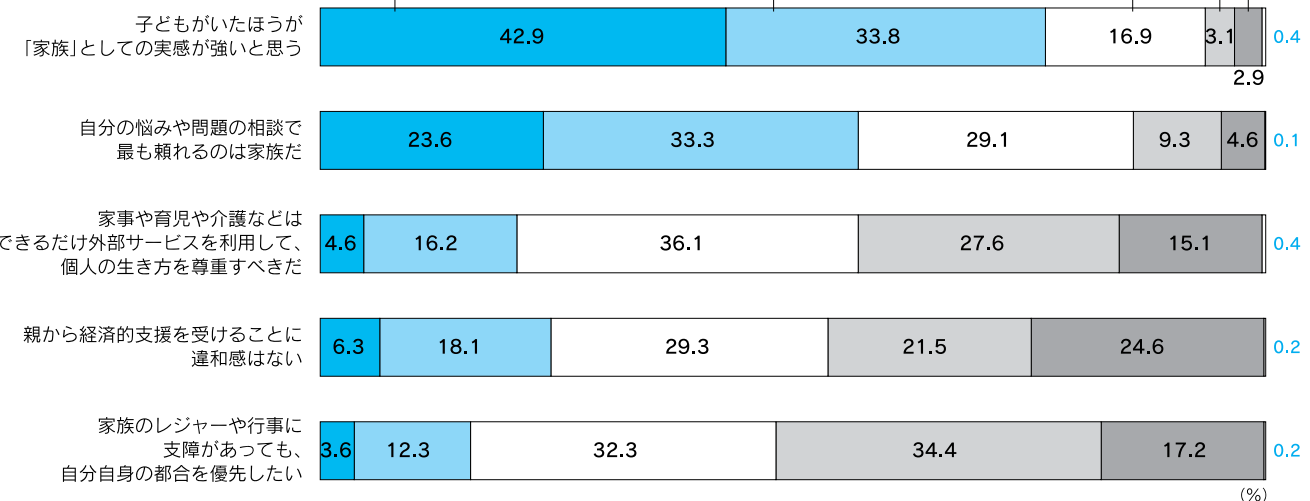
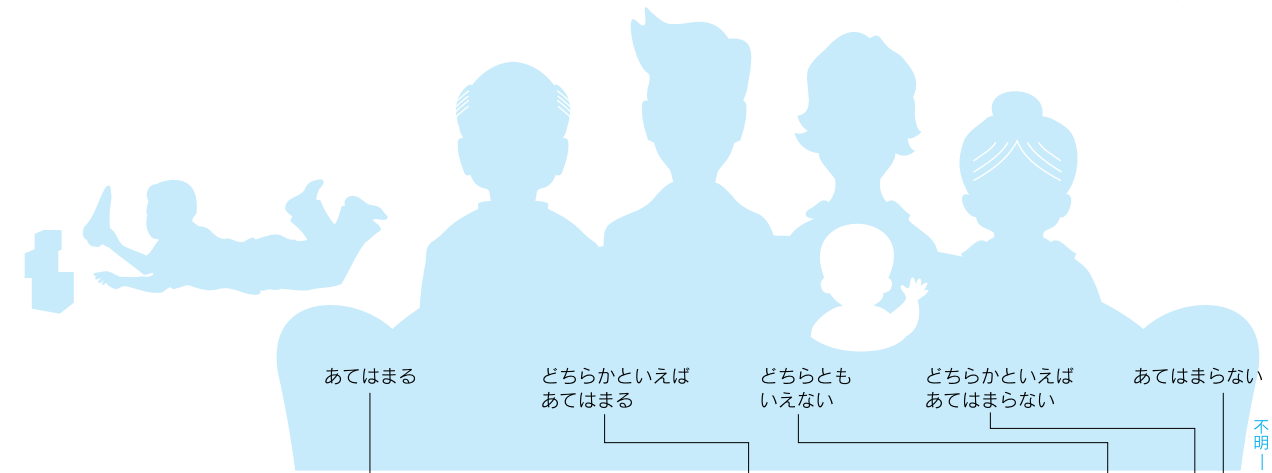


②現在の仕事は、自分の能力や個性を発揮するのに適した、働きがいのあるものだ



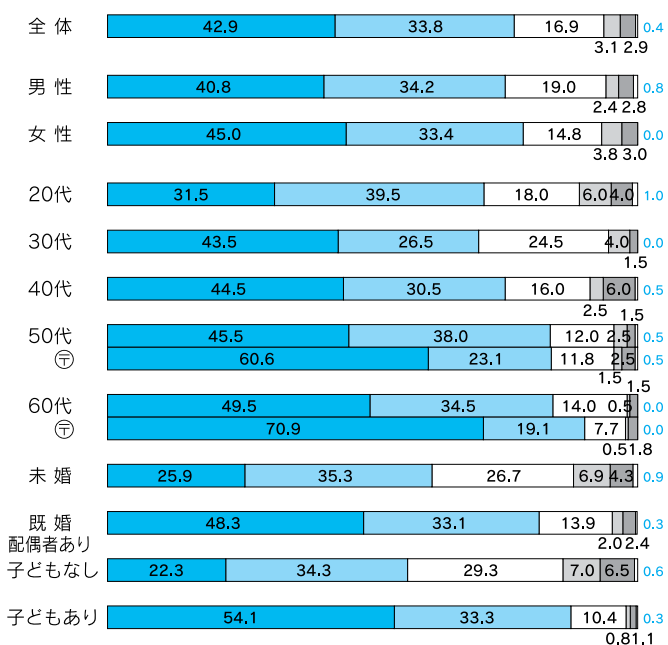
※下段①～⑦のグラフのみ、全体(n=639)、女性(n=243)、男性(n=396)、20代(n=116)、30代(n=150)、40代(n=161)、50代(n=136)、Ⓢ50代(n=157)、60代(n=76)、Ⓢ60代(n=94)

家族のあり方に関する以下の項目は、それぞれあなたの考えにどの程度あてはまりますか。

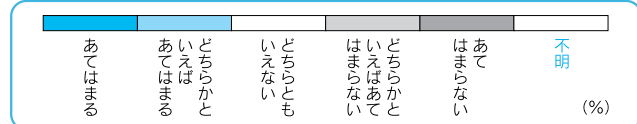
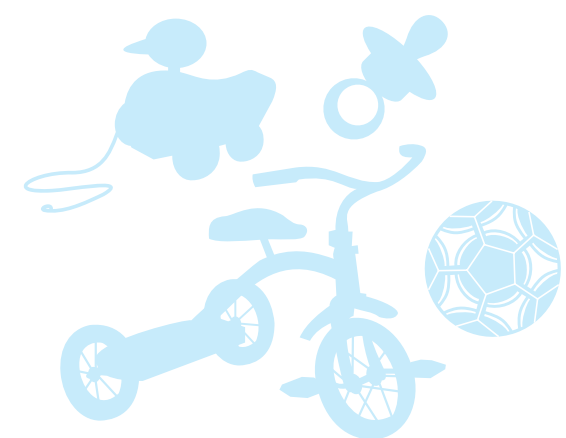


家族のあり方に関する5項目のうち、最も同意する回答者の多かった項目は、「子どもがいたほうが『家族』としての実感が強い」、最も同意の少なかった項目は「家族のレジャーや行事に支障があっても、自分自身の都合を優先したい」であった。「家事や育児や介護などではできるだけ外部サービスを利用して、個人の生き方を尊重すべきだ」という考え方に賛同する回答者は約2割にとどまっている。

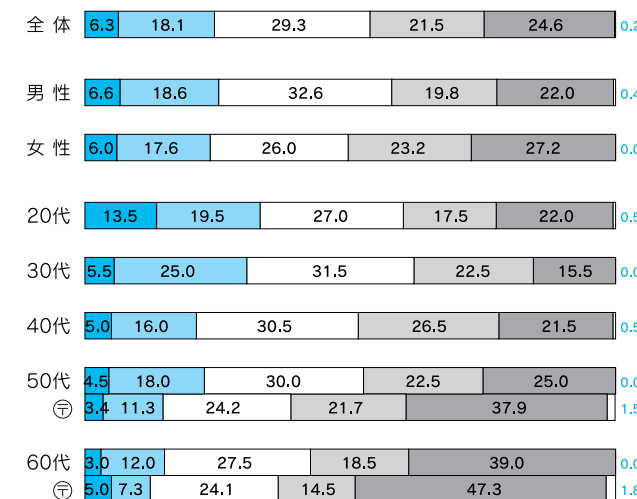
①子どもがいたほうが「家族」としての実感が強いと思う



「子どもがいたほうが『家族』としての実感が強いと思う」という考えに対して、男女とも、7割以上が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。年齢が高いほど同意する回答者が多く、とくに郵送調査による50代・60代では6割以上が「あてはまる」と回答している。また、実際に子どもを持つ回答者は持たない回答者と比較して「(どちらかといえば)あてはまる」とする回答が多くなっている。

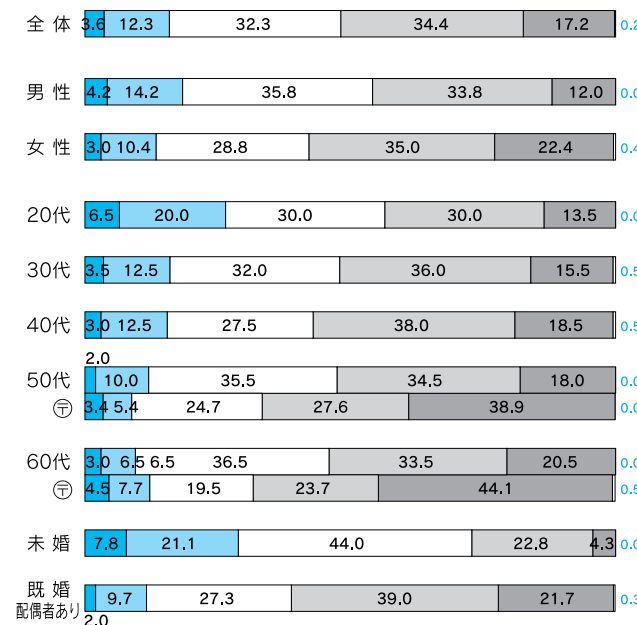


④親から経済的支援を受けることに違和感はない



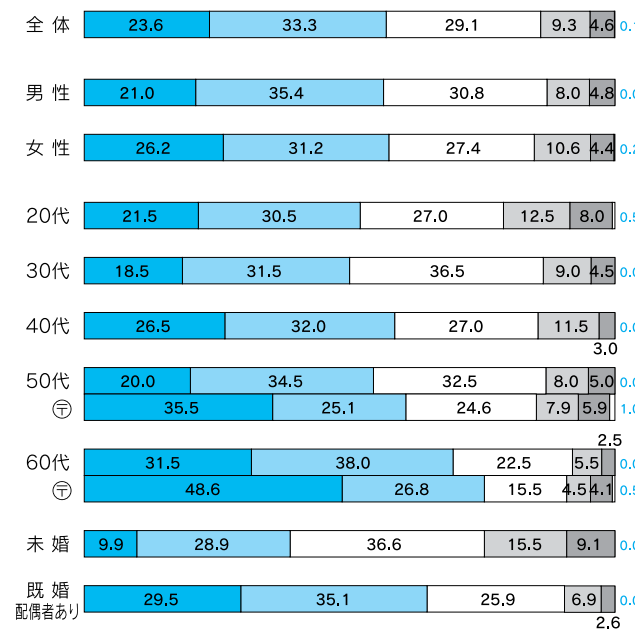
「親から経済支援を受けることに対する違和感はない」に対しては、全体の46.1%が「(どちらかといえば)あてはまらない」と回答し、「(どちらかといえば)あてはまる」とした24.4%を上回った。この傾向は年齢が上がるほど強くなっている。

⑤家族のレジャーや行事に支障があっても、自分自身の都合を優先したい



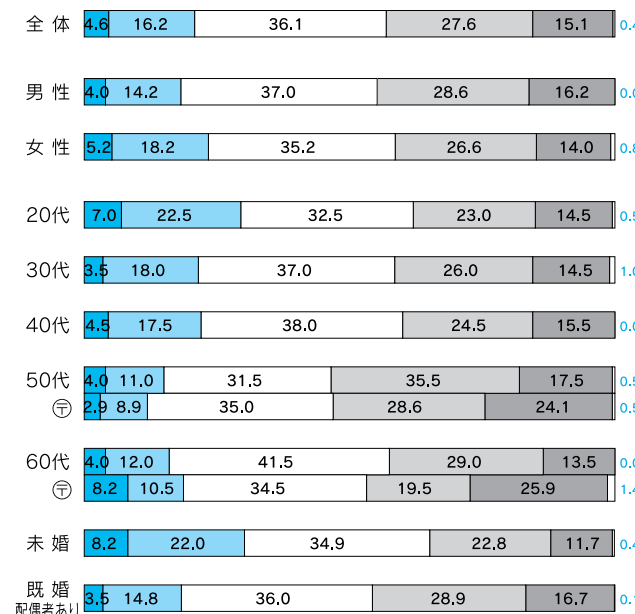
「家族のレジャーや行事に支障があっても、自分の都合を優先したい」に対して「(どちらかといえば)あてはまる」とした回答は全体の15.9%にとどまり、年齢が上がるほど家族とともに過ごす時間を尊重しようとする傾向が読みとれる。

②自分の悩みや問題の相談で最も頼れるのは家族だ



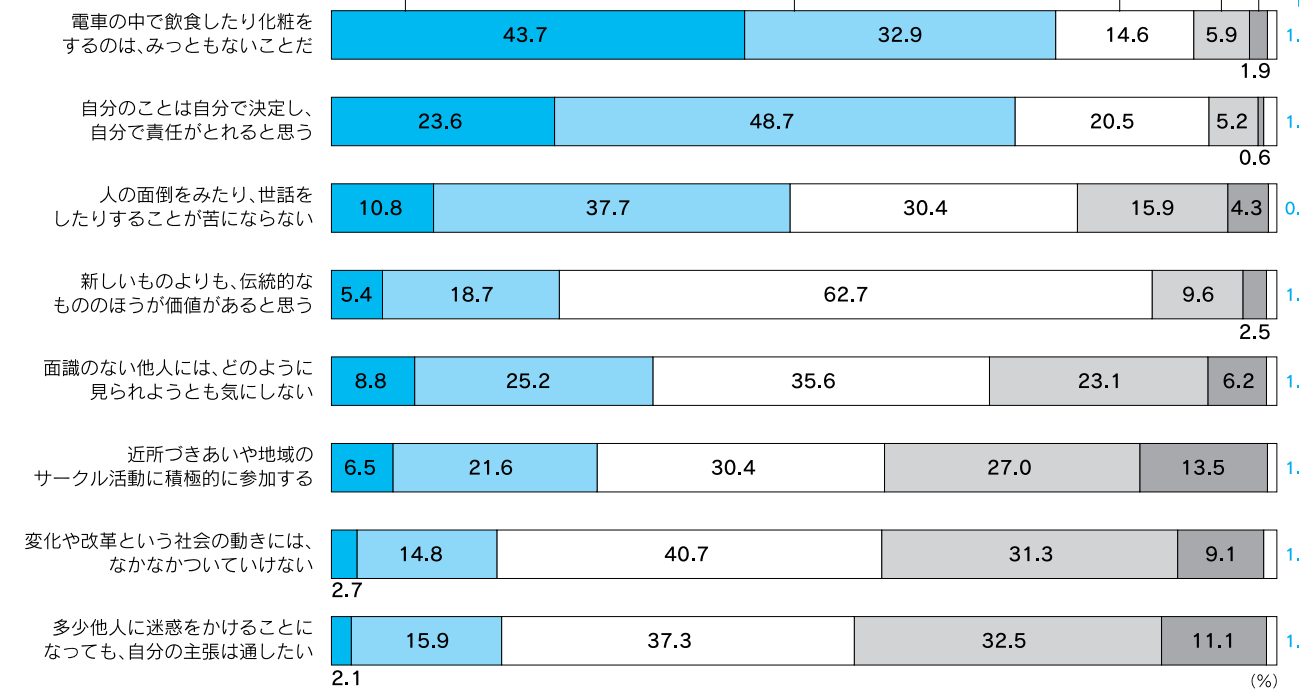
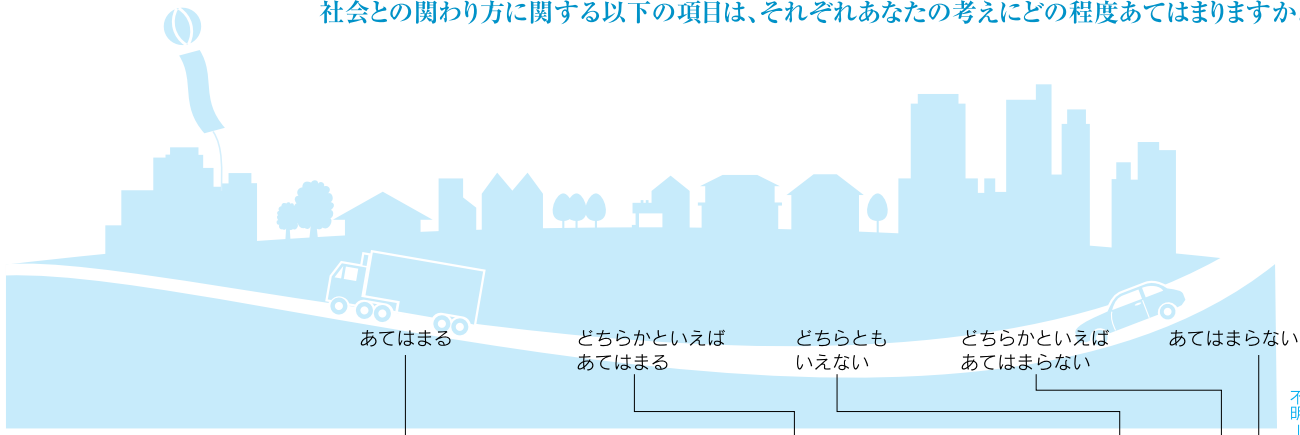
「自分の悩みや問題の相談で最も頼れるのは家族だ」に対して、約半数が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。年齢が上がるほど「あてはまる」とする回答が多い。既婚者は64.6%が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答し、未婚者の38.8%を大きく上回る結果となった。

③家事や育児や介護などではできるだけ外部サービスを利用して、個人の生き方を尊重すべきだ

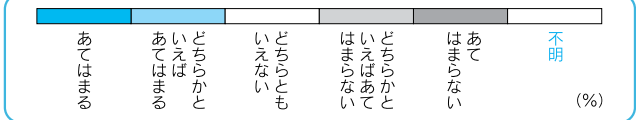


「家事や育児や介護などではできるだけ外部サービスを利用して、個人の生き方を尊重すべきだ」という考え方に対しては全体の42.7%が「(どちらかといえば)あてはまらない」と回答し、外部サービスの利用に対する抵抗感が示された。この傾向が20代・30代の若い年代にも見られることが注目される。

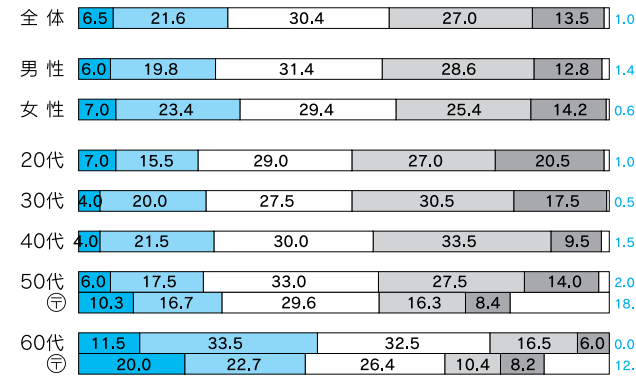
社会との関わり方に関する以下の項目は、それぞれあなたの考えにどの程度あてはまりますか。



社会との関わり方に関する8項目のうち、最も多くの回答者が同意した項目は「電車の中で飲食したり化粧をするのは、みっともないことだ」で、最も同意する回答者の少なかった項目は「多少他人に迷惑をかけることになっても、自分の主張は通したい」であった。「新しいものよりも、伝統的なもののほうが価値があると思う」という考え方に対しては、6割以上が「どちらともいえない」と回答している。

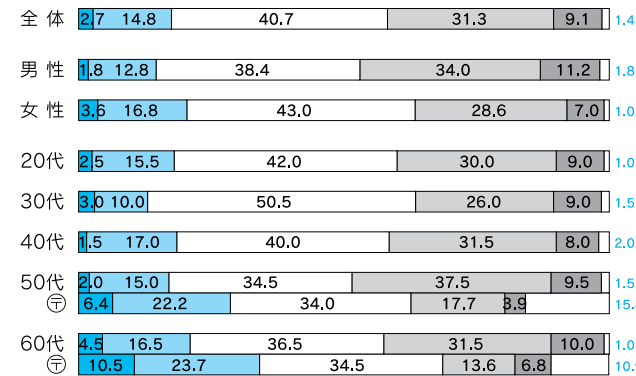


⑥ 近所づきあいや地域のサークル活動に積極的に参加する



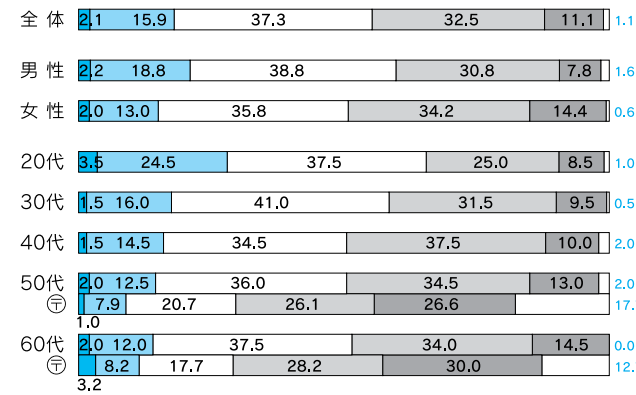
「近所づきあいや地域のサークル活動に積極的に参加する」に対して「(どちらかといえば)あてはまる」と答えた回答者は全体の28.1%で、60代でとくに高くなっている。

⑦ 変化や改革という社会の動きには、なかなかついていけない



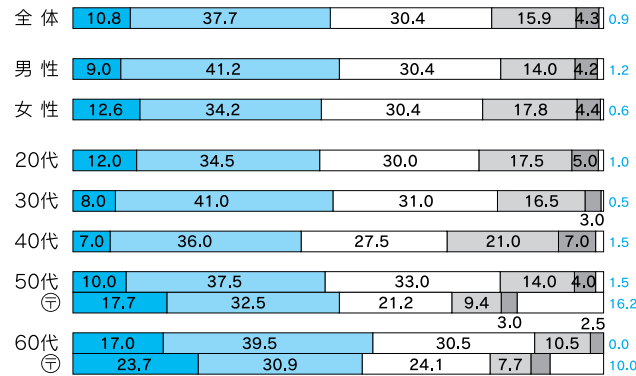
「変化や改革という社会の動きには、なかなかついていけない」に対しては、40.4%が「(どちらかといえば)あてはまらない」と回答した。50代・60代では郵送調査による回答で「(どちらかといえば)あてはまる」と答える割合が高い。

⑧ 多少他人に迷惑をかけることになっても、自分の主張は通したい



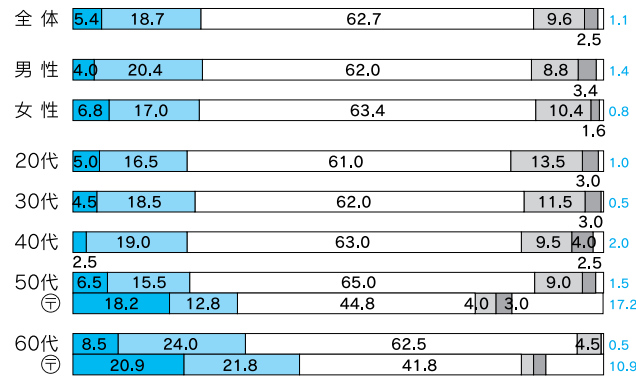
「多少他人に迷惑をかけることになっても、自分の主張は通したい」に対しては43.6%が「(どちらかといえば)あてはまらない」と回答した。年齢が上がるほど、「(どちらかといえば)あてはまらない」とする割合が高くなっている。

③ 人の面倒をみたり、世話をしたりすることが苦にならない



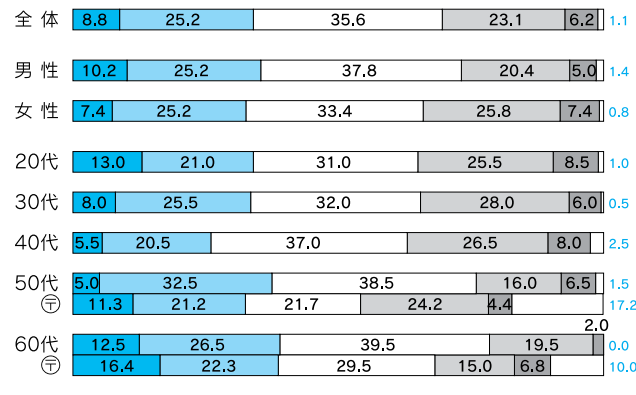
「人の面倒を見たり、世話をしたりすることが苦にならない」に対しては全体の48.5%が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。年齢による大きな差は見られないが、40代で若干低い結果となっている。

④ 新しいものよりも、伝統的なもののほうが価値があると思う



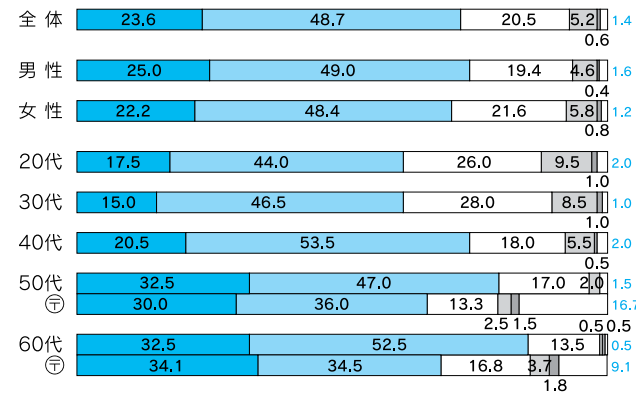
「新しいものよりも、伝統的なもののほうが価値があると思う」に対しては全体の62.7%が「どちらともいえない」と回答している。60代と郵送調査による50代・60代でやや「(どちらかといえば)あてはまる」とする割合が高くなっている。

⑤ 面識のない他人には、どのように見られようとも気にしない



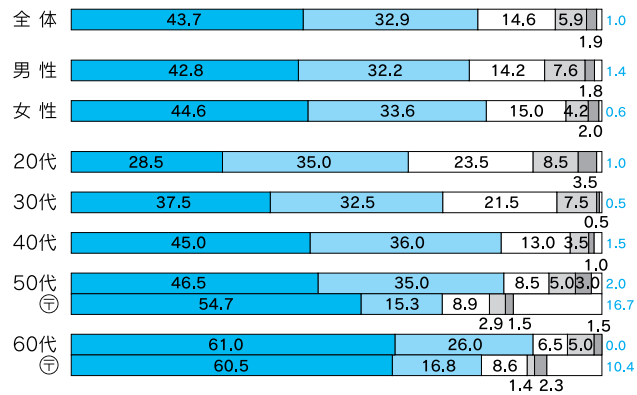
「面識のない他人には、どのように見られようとも気にしない」に対しては意見が分かれ、全体では「(どちらかといえば)あてはまる」「(どちらかといえば)あてはまらない」がそれぞれ3割程度となっている。

② 自分のことは自分で決定し、自分で責任がとれると思う



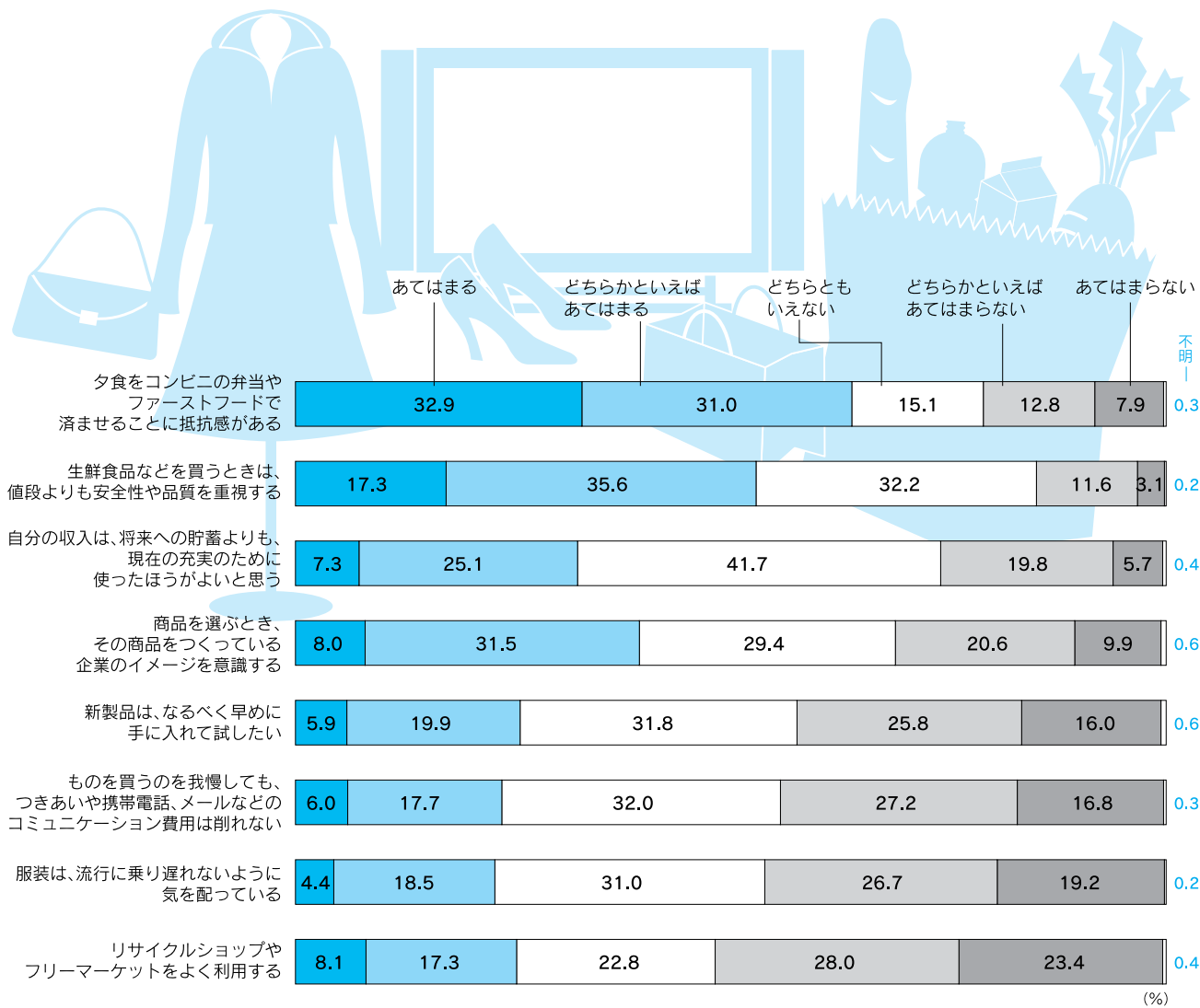
「自分のことは自分で決定し、自分で責任がとれると思う」と考える回答者の割合は全体の72.3%（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計）にのぼり、年齢が上がるほど高くなっている。

① 電車の中で飲食したり化粧をするのは、みっともないことだ

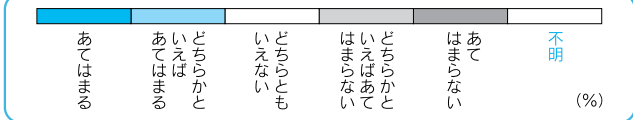


電車の中で飲食したり化粧をしたりすることに対しては、全体の8割近くが「みっともない」と考えている（「(どちらかといえば)あてはまる」と回答）ことが示された。この傾向は年齢が上がるほど強くなっている。

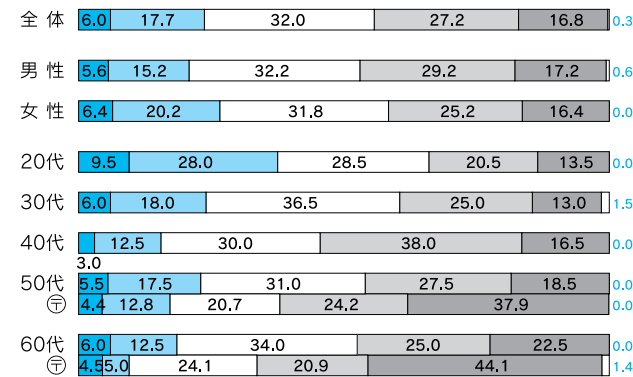
ものの購入やサービスの利用に関する以下の項目は、それぞれどの程度あなたの考えにあてはまりますか。



ものの購入やサービスの利用に関する8項目のうち、同意する回答者の多かった項目は「夕食をコンビニの弁当やファーストフードで済ませることに抵抗感がある」「生鮮食品などを買うときは、値段よりも安全性や品質を重視する」などで、安全性や安心感に対する意識の高さがうかがわれる結果となった。同意する回答者の少なかった項目は「リサイクルショップやフリーマーケットをよく利用する」「服装は、流行に乗り遅れないように気を配っている」などであった。

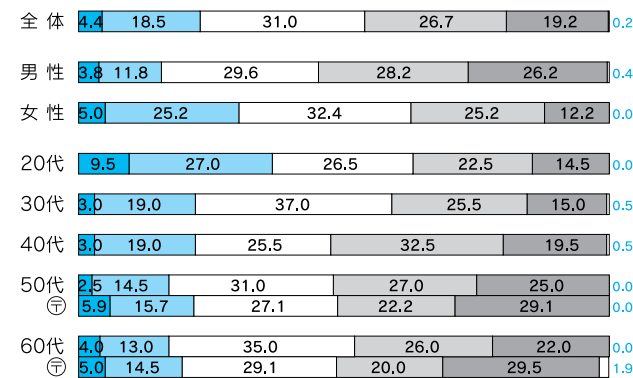


⑥ものを買うのを我慢しても、つきあいや携帯電話、メールなどのコミュニケーション費用は削れない



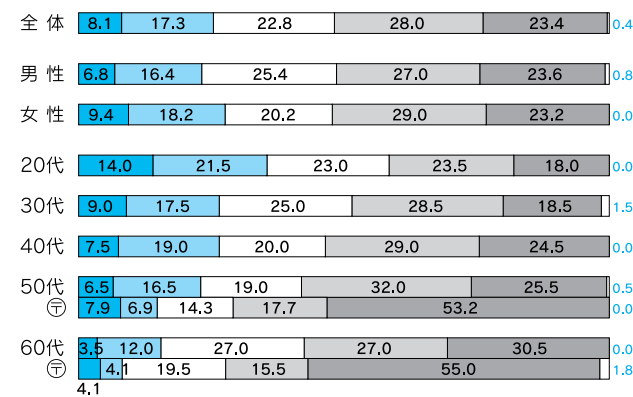
「ものを買うのを我慢しても、コミュニケーション費用は削れない」としたのは全体の23.7%で(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計)。この傾向は20代で顕著であった。

⑦服装は、流行に乗り遅れないように気を配っている



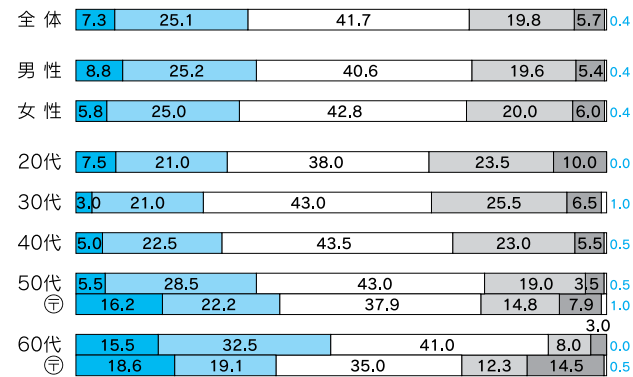
「服装は、流行に乗り遅れないように気を配っている」に対しては45.9%が「(どちらかといえば)あてはまらない」と回答した。流行を気にかける傾向は男性より女性で、年代では20代で強い。

⑧リサイクルショップやフリーマーケットをよく利用する



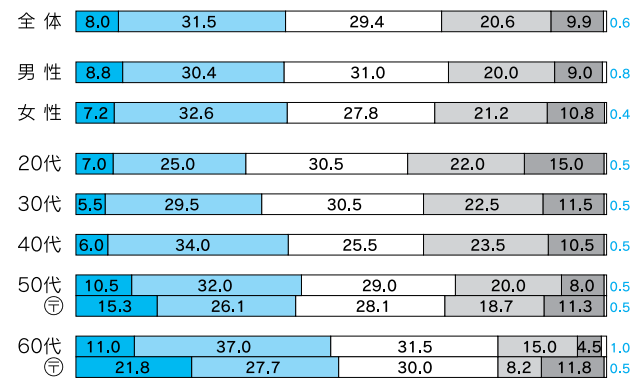
リサイクルショップやフリーマーケットの利用率は若い年代のほうが高く、20代では35.5%に達している(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計)。50代・60代ではWEB調査と郵送調査に顕著な差が見られた。

⑨自分の収入は、将来への貯蓄よりも、現在の充実のために使ったほうがよいと思う



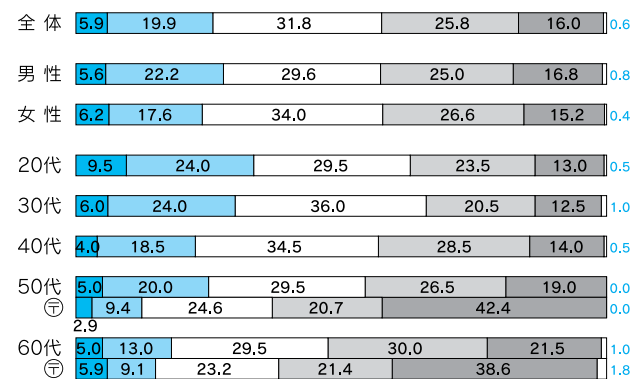
「自分の収入は、将来への貯蓄よりも現在の充実のために使ったほうがよいと思う」に対しては全体の4割が「どちらともいえない」と回答している。50代・60代でやや「(どちらかといえば)あてはまる」とする割合が高くなっている。

⑩商品を選ぶとき、その商品をつくっている企業のイメージを意識する



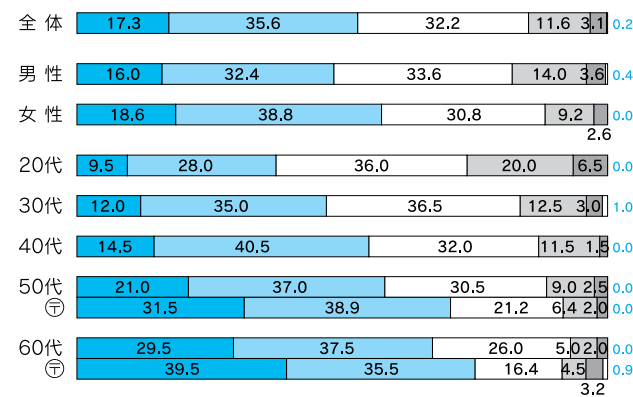
「商品を選ぶとき、その商品をつくっている企業のイメージを意識する」に対しては全体の約4割が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。

⑪新製品は、なるべく早めに手に入れて試したい



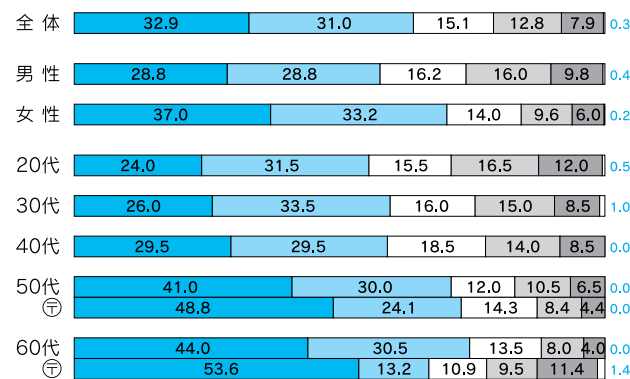
「新製品は、なるべく早めに手に入れて試したい」とする割合は全体の25.8%で、若い年代でやや高い結果となっている。

⑫生鮮食品などを買うときは、値段よりも安全性や品質を重視する



生鮮食品などを買う際に「値段よりも安全性や品質を重視する」人の割合は、全体の5割強で(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計)、男性より女性で、また年齢が上がるほど高くなっている。

⑬夕食をコンビニの弁当やファーストフードで済ませることに抵抗感がある



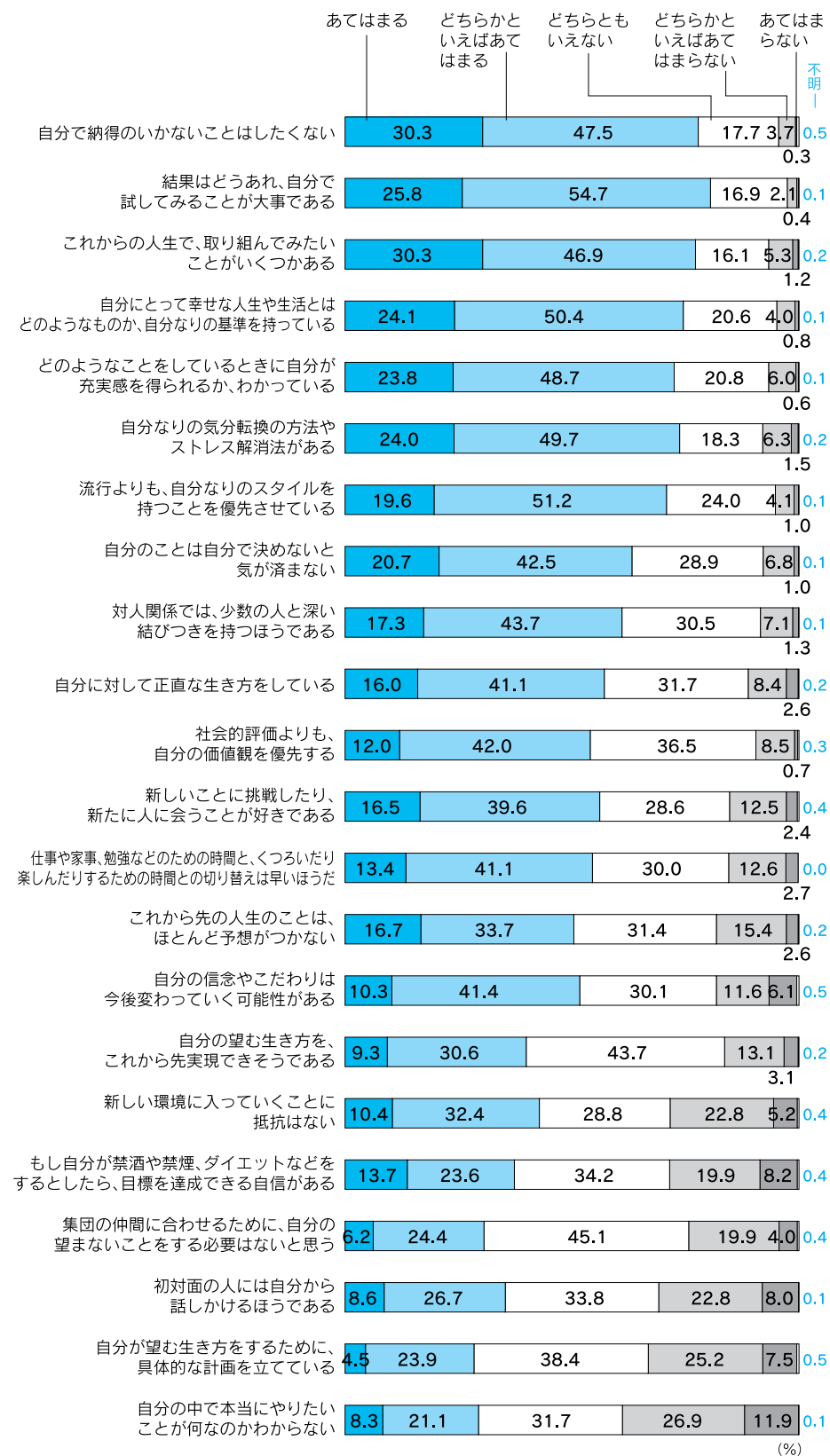
「夕食をコンビニの弁当やファーストフードで済ませること」に対しては、全体の6割以上が抵抗感を示している(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」計)。この傾向は男性より女性で強く、年齢が上がるほど強くなっている。

「個人の生き方」と 「人との関わり方」

ここまで、「家族」や「仕事」「地域社会」などに関する具体的な事柄を通して、日本人の生き方・暮らし方をとらえてきた。ここでは「個人の生き方・考え方」と「人との関わり方」という視点から、その背景にあるものについて少し掘り下げて見ていきたい。

個人の生き方 3-1

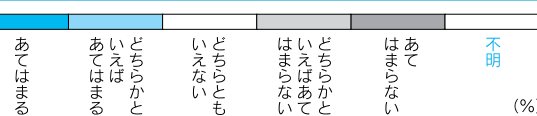
生き方や考え方に関する以下の項目は、あなた自身にどの程度あてはまりますか。



個人の生き方や考え方に関するさまざまな項目のうち、同意する回答者の多かった項目は「自分で納得のいかないことはしたくない」「結果はどうあれ、自分で試してみることが大切である」「これからの人生で、取り組んでみたいことがいくつかある」で、同意する回答者の少なかった項目は「自分の中で本当にやりたいことが何なのかわからない」「自分が望む生き方をするために、具体的な計画を立てている」であった。自分自身の納得感を重視し、「やりたいこと」に向けて取り組んでいこうとする姿が浮かび上がってくる。

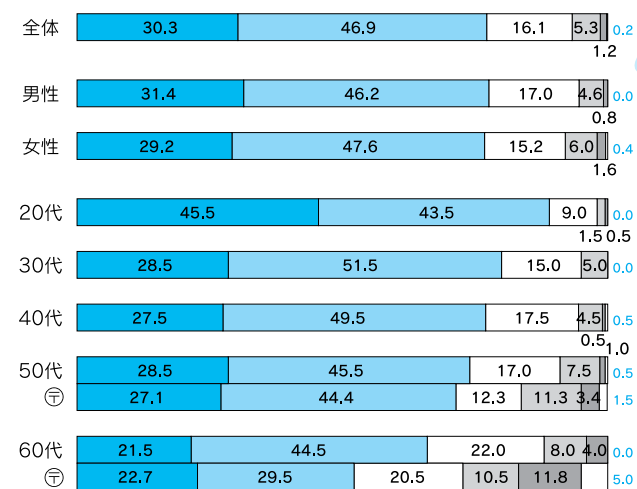
はみだしコメント

たらいの水は、手元でかき回すよりも、大きく回したほうが自分のところに戻ってくる、と母がよく言っていた。(65歳、男性)

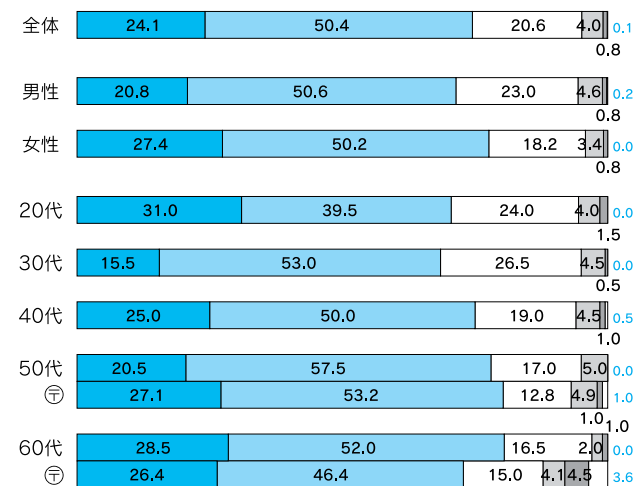


「自分で納得のいかないことはしたくない」「結果はどうあれ、自分で試してみることが大事である」については、どの年代においても7割以上の回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答し、自分自身の納得感を重視する傾向が示された。また、「これからの人生で、取り組んでみたいことがいくつかある」という項目についても、20代の89.0%を筆頭に、多くの回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答している。「自分にとって幸せな人生や生活とはどのようなものか、自分なりの基準を持っている」に対しては全体の74.5%が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答し、「(どちらかといえば)あてはまらない」とする回答者は5%に満たなかった。

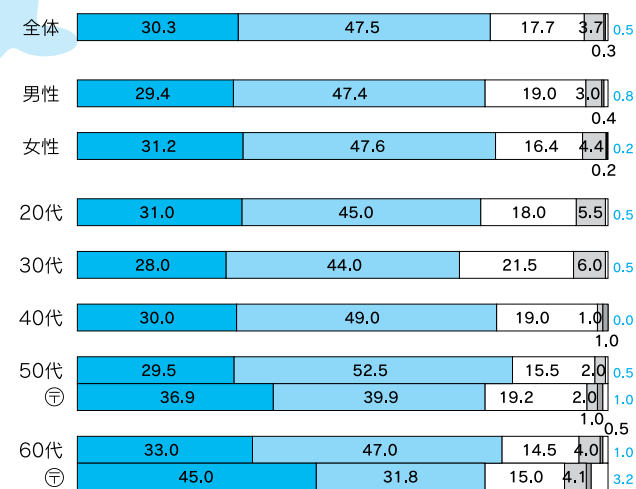
③ これからの人生で、取り組んでみたいことがいくつかある



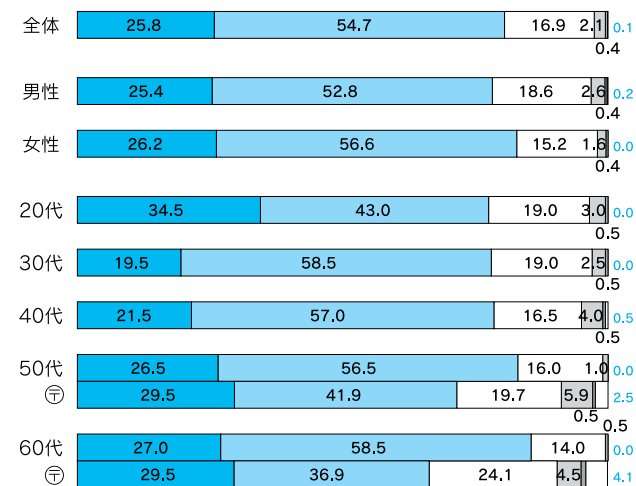
④ 自分にとって幸せな人生や生活とはどのようなものか、自分なりの基準を持っている



① 自分で納得のいかないことはしたくない

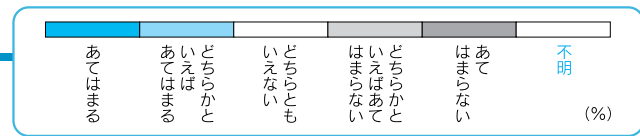


② 結果はどうあれ、自分で試してみることが大事である

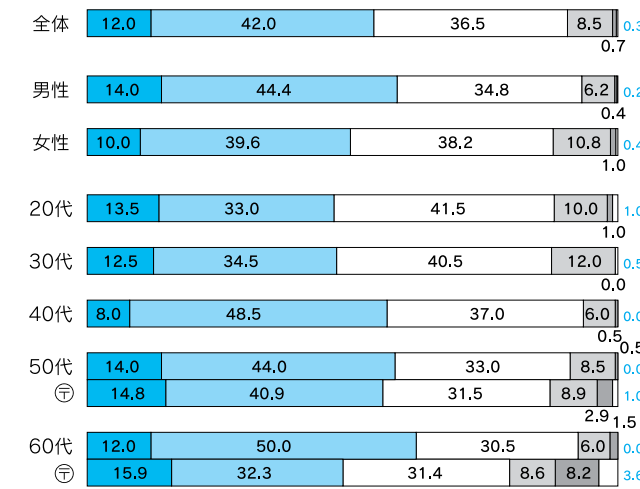


はみだしコメント

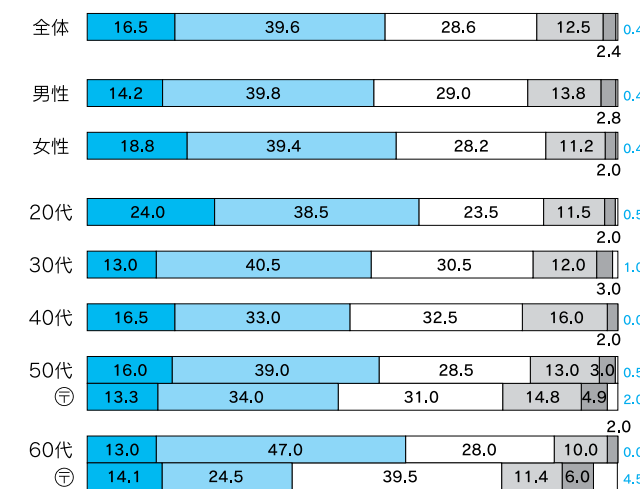
いままですっと決断を先延ばしにしてきた。後で選択肢を狭めないように進学し、会社に入り、仕事も選んできた。(35歳、女性)



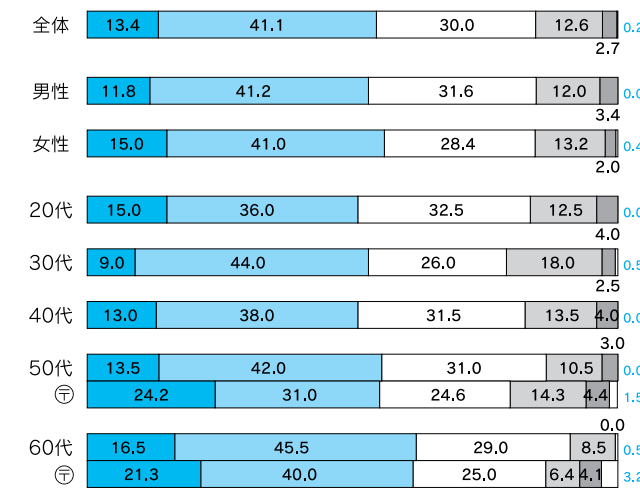
⑪社会的評価よりも、自分の価値観を優先する



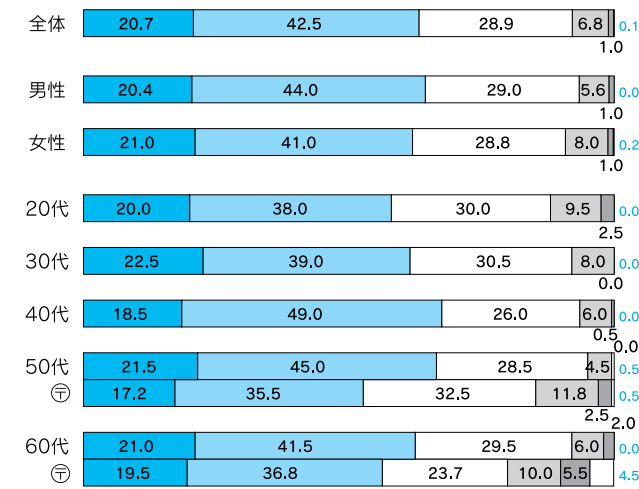
⑫新しいことに挑戦したり、新たに人に会うことが好きである



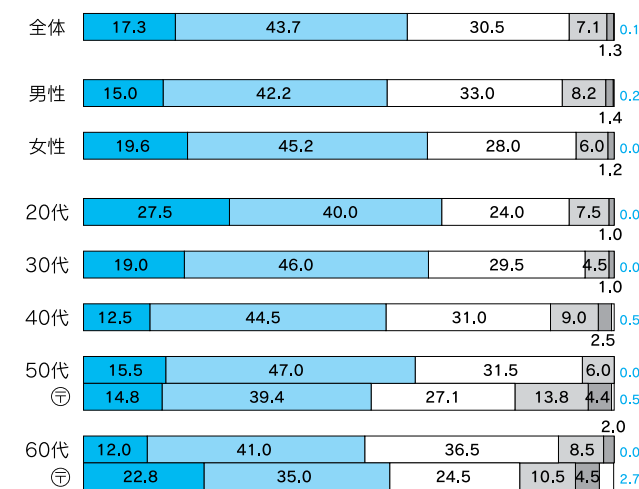
⑬仕事や家事、勉強などのための時間と、くつろいだり
楽しんだりするための時間との切り替えは早いほうだ



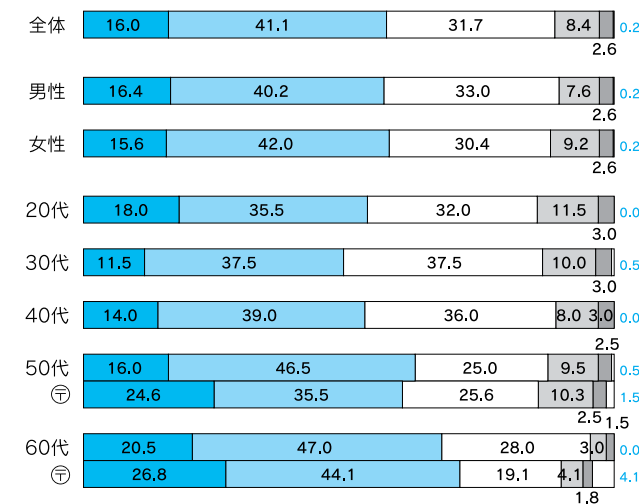
⑧自分のことは自分で決めないと気が済まない



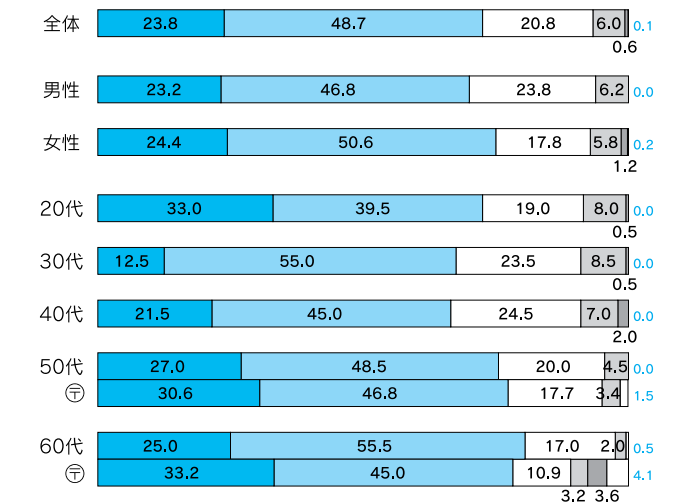
⑨対人関係では、少数の人と深い結びつきを持つほうである



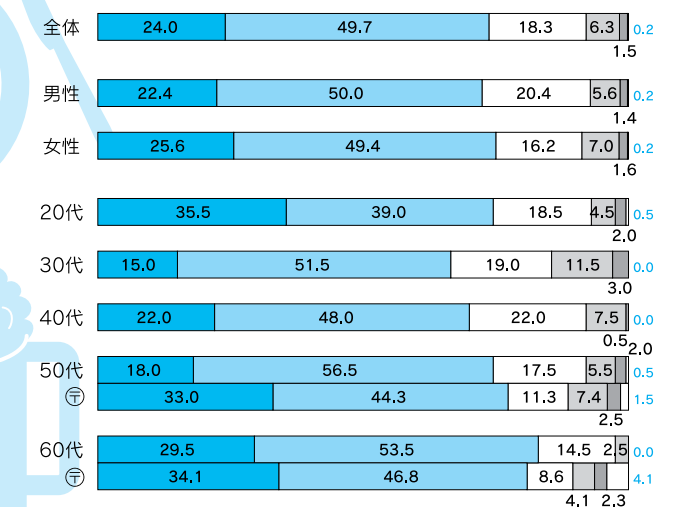
⑩自分に対して正直な生き方をしている



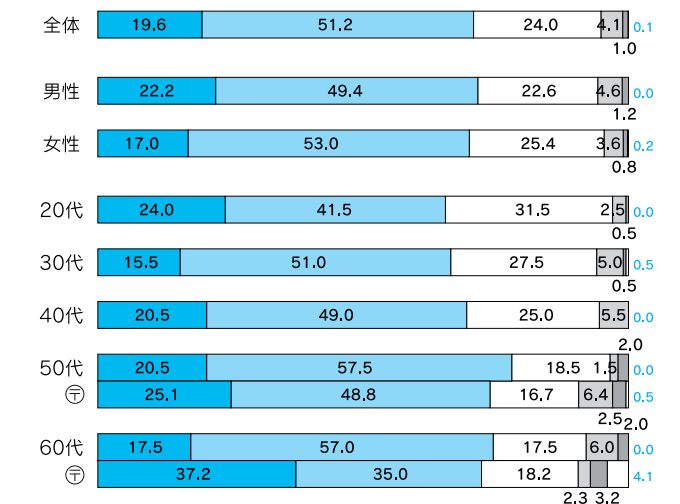
⑤どのようなことをしているときに自分が充実感を得られるか、わかっている



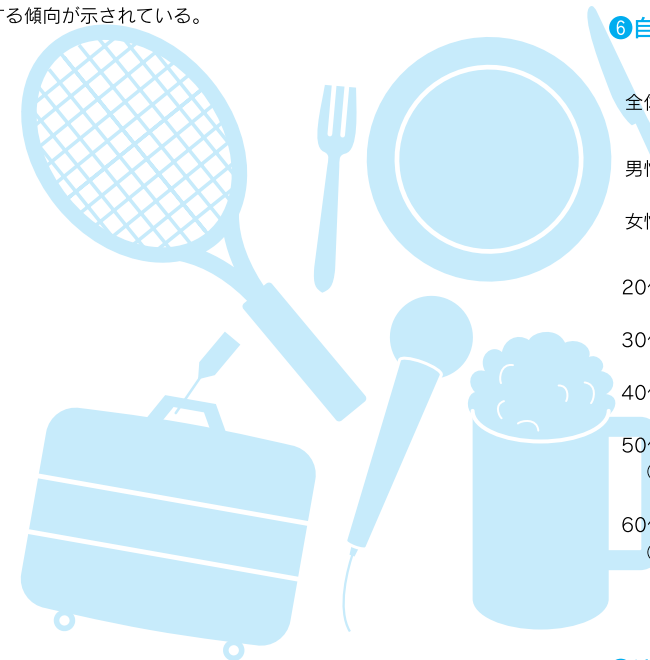
⑥自分なりの気分転換の方法やストレス解消法がある

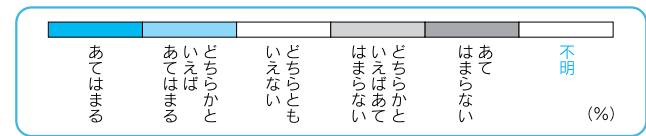


⑦流行よりも、自分なりのスタイルを持つことを
優先させている

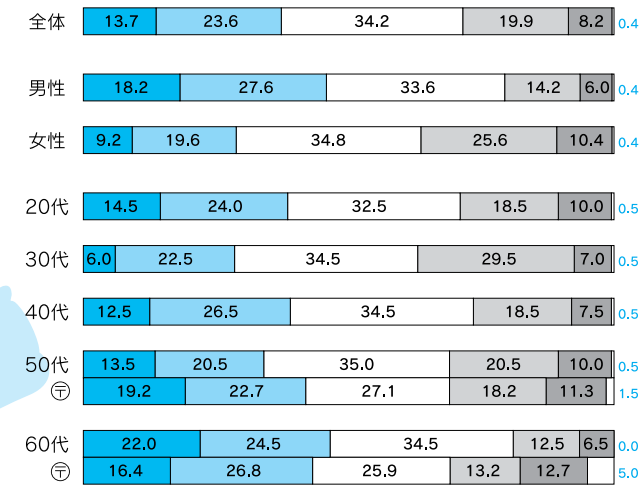


「どのようなことをしているときに自分が充実感を得られるか、わかっている」に対しては、7割を超える回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。年代別に見ると、30代で「あてはまる」とする回答が少なくなっている。同様に、「自分なりの気分転換の方法やストレス解消法がある」「自分に対して正直な生き方をしている」などの項目についても、30代で「あてはまる」と回答する割合が最も低い結果となった。「流行よりも、自分なりのスタイルを持つことを優先させている」に同意する回答者は全体の7割、「社会的評価よりも、自分の価値観を優先する」に同意する回答者は5割を占め、「自分らしさ」や「自分なりの価値観」を重視する傾向が示されている。

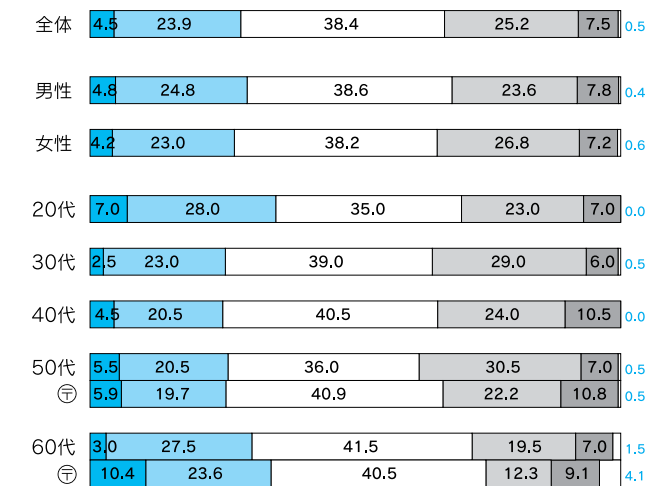




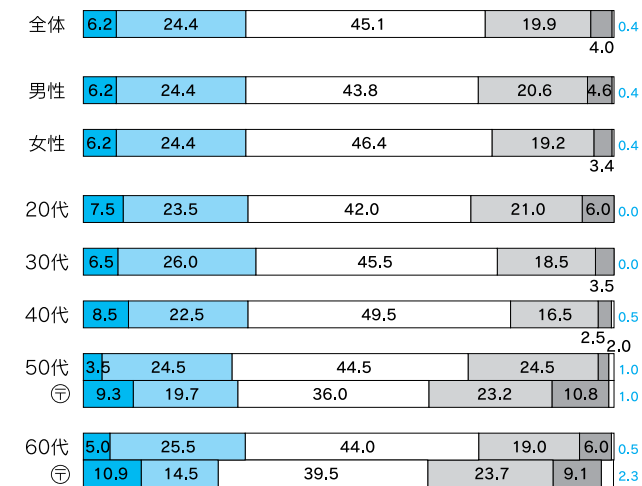
⑬もし自分が禁酒や禁煙、ダイエットなどをするとしたら、目標を達成できる自信がある



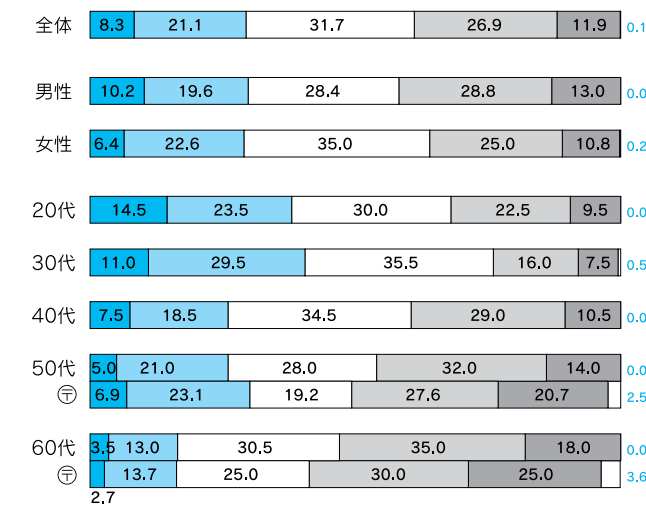
⑭自分が望む生き方をするために、具体的な計画を立てている



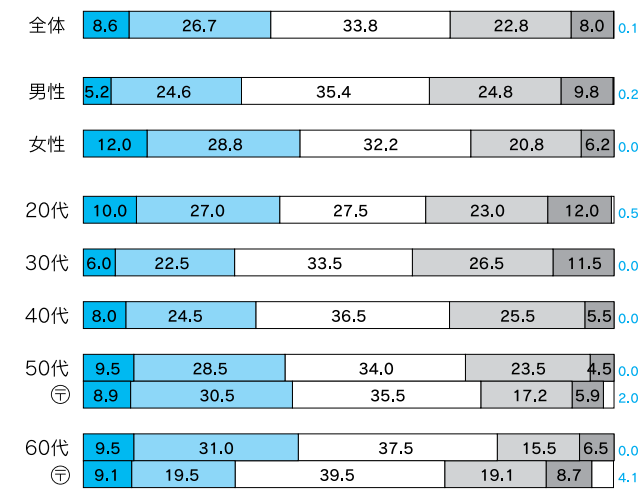
⑮集団の仲間に合わせるために、自分の望まないことをする必要はないと思う



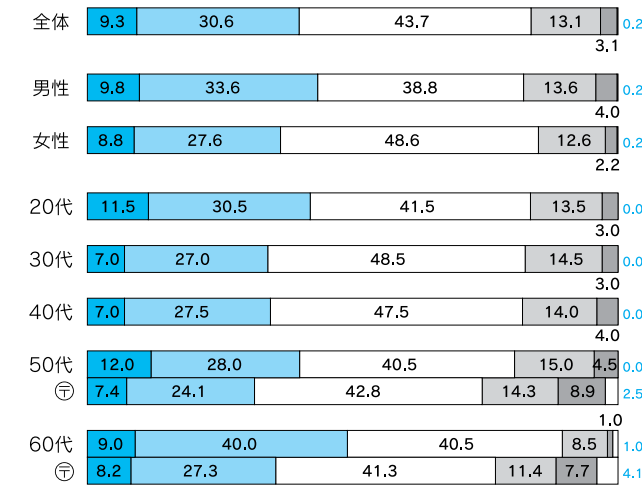
⑯自分の中で本当にやりたいことが何なのかわからない



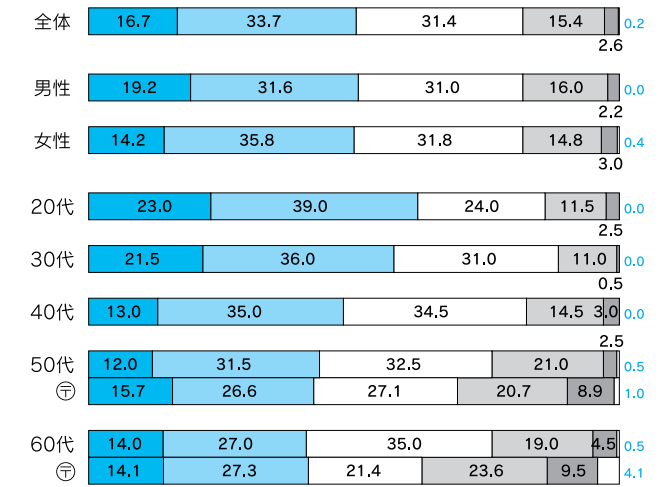
⑰初対面の人には自分から話しかけるほうである



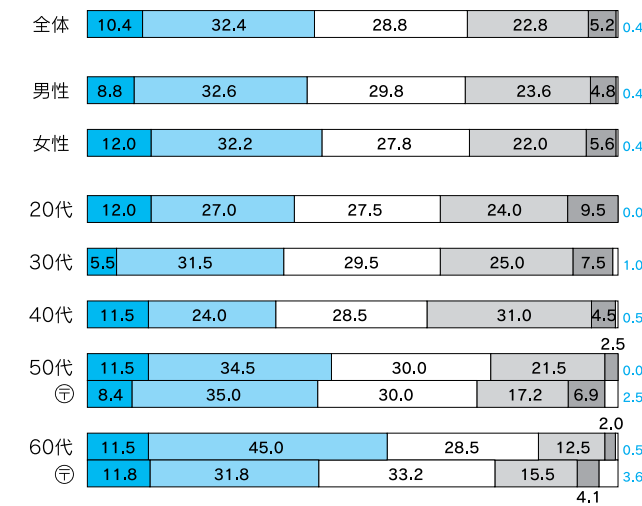
⑱自分の望む生き方を、これから先実現できそうである



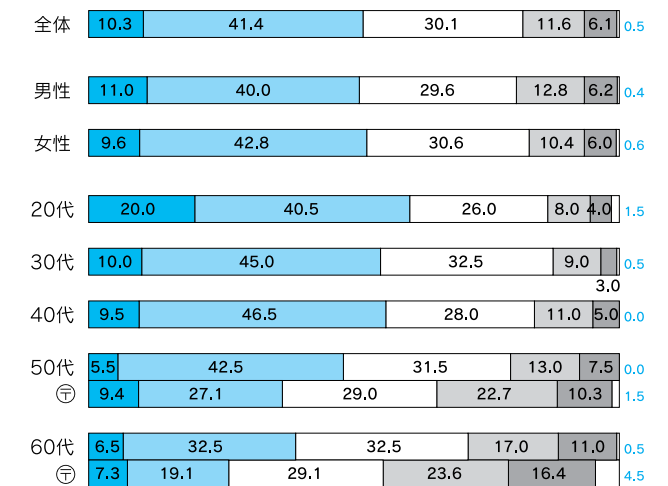
⑲これから先の人生のことは、ほとんど予想がつかない



⑳新しい環境に入っていくことに抵抗はない



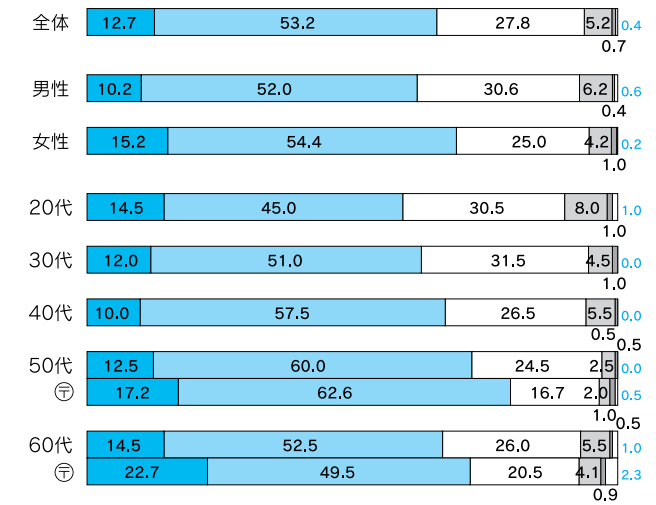
㉑自分の信念やこだわりは今後変わっていく可能性がある



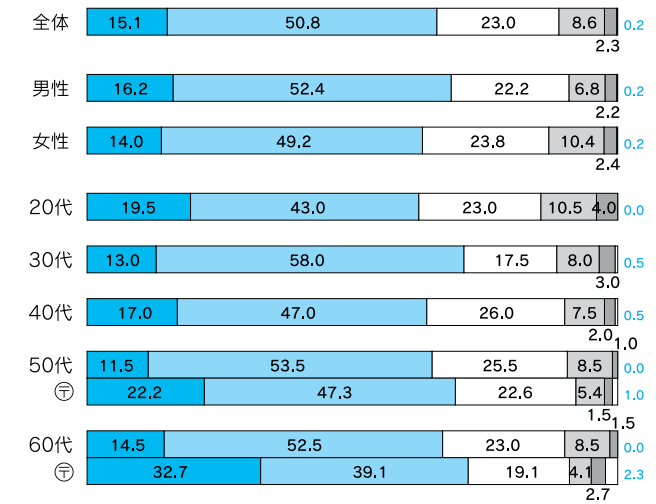
「これから先の人生のことは、ほとんど予想がつかない」「自分の信念やこだわりは今後変わっていく可能性がある」など、今後の生き方の見通しの不透明さ、可変性に関する項目では、とくに若い年代で「(どちらかといえば)あてはまる」と回答する割合が高く、20代では6割を超える結果となっている。「自分の望む生き方を、これから先実現できそうである」に対しては、全体の約4割の回答者が「どちらともいえない」と答えており、そのための具体的な計画があるかを尋ねた項目では、計画がないとする回答のほうが多い結果となった。また、20代・30代では「自分の中で本当にやりたいことが何なのかわからない」に対して「(どちらかといえば)あてはまる」と答えた回答者の割合が「(どちらかといえば)あてはまらない」を上回っている。とくに30代では、「禁酒や禁煙、ダイエットなどに対する自信」もすべての年代の中で最も低く、今後に対する見通しや自信のなさが浮かび上がる結果となった。

人との関わり方に関する以下の項目は、あなた自身にどの程度あてはまりますか。

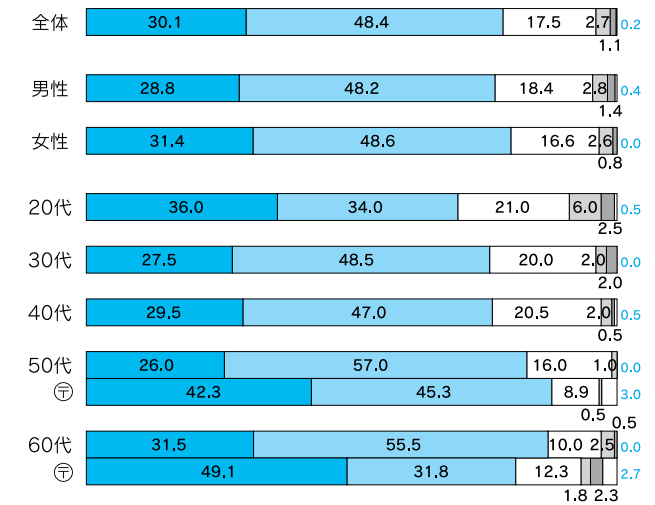
③周囲との調和をはかるために自分の主張を抑えることがある



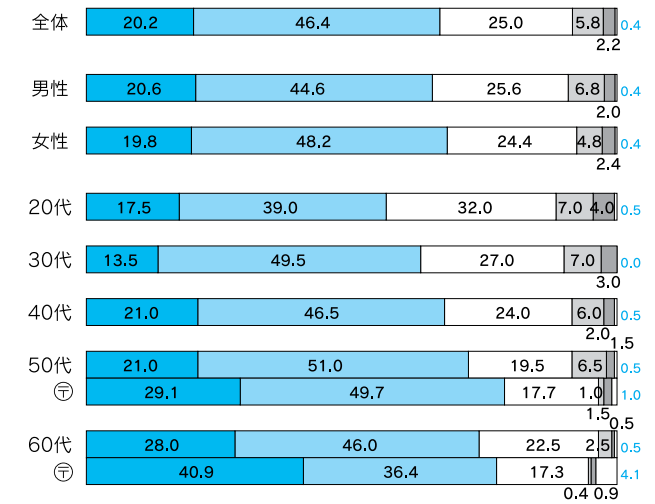
④この世の中では、義理やしきたりはなくてはならないものである



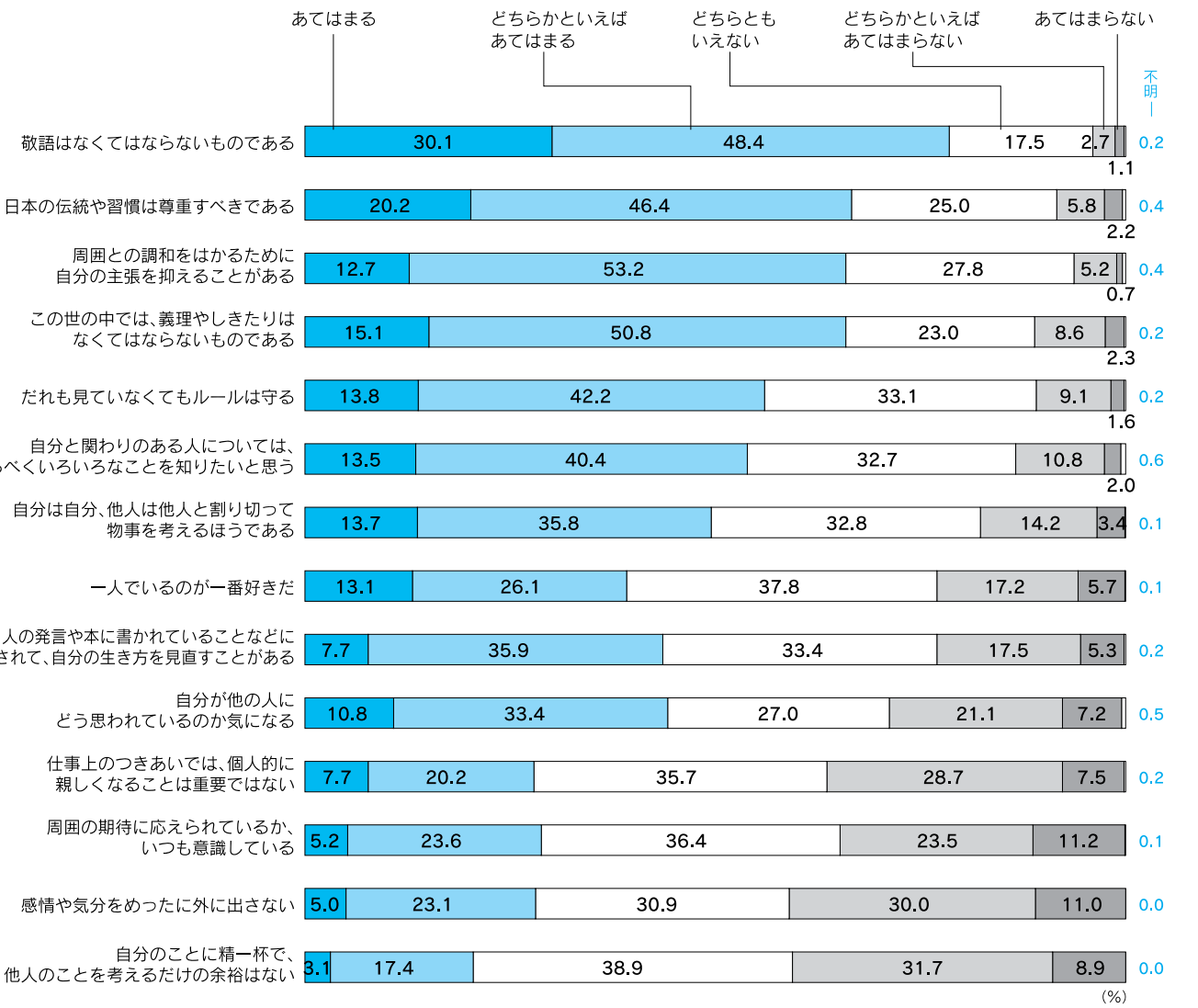
①敬語はなくてはならないものである



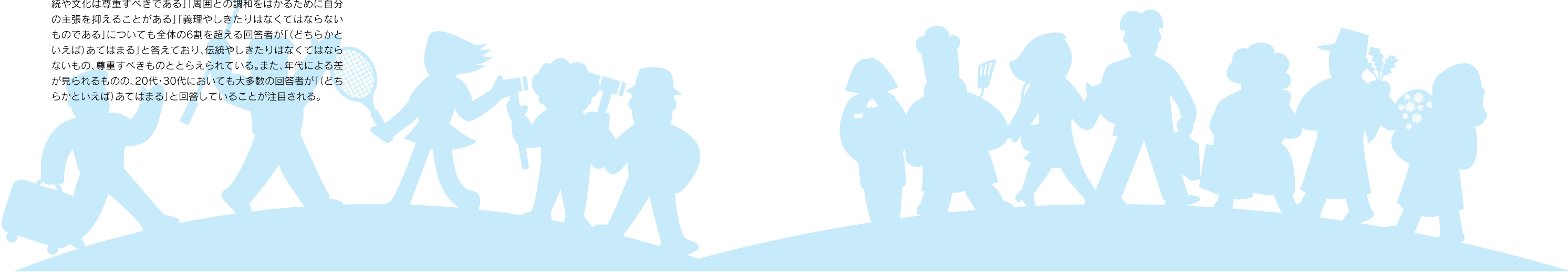
②日本の伝統や習慣は尊重すべきである

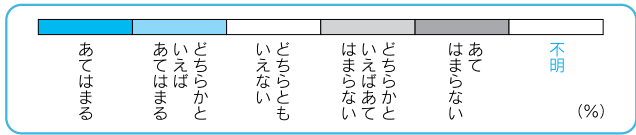


「敬語はなくてはならないものである」に対して、8割近くの回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答した。同様に、「日本の伝統や文化は尊重すべきである」「周囲との調和をはかるために自分の主張を抑えることがある」「義理やしきたりはなくてはならないものである」についても全体の6割を超える回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と答えており、伝統やしきたりはなくてはならないもの、尊重すべきものととらえられている。また、年代による差が見られるものの、20代・30代においても大多数の回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答していることが注目される。

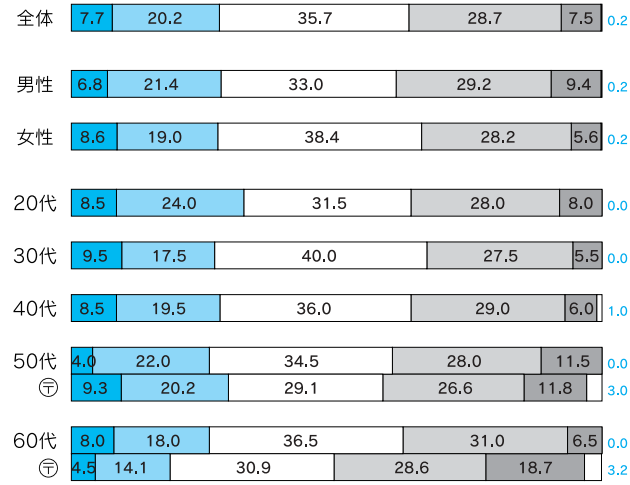


人との関わり方に関するさまざまな項目のうち、同意する回答者の多かった項目は、「敬語はなくてはならないものである」「日本の伝統や習慣は尊重すべきである」「周囲との調和をはかるために自分の主張を抑えることがある」など、周囲との「和」を重んじる傾向を示すものであった。反対に、同意する回答者の少ない項目は「自分のことに精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない」「感情や気分をめったに外に出さない」「仕事上のつきあいでは、個人的に親しくなることは重要ではない」など、人との関わりを避ける傾向を示すものとなっている。全体として見ると、周囲と積極的に関わり、その和を保とうとする傾向の表れる結果となった。



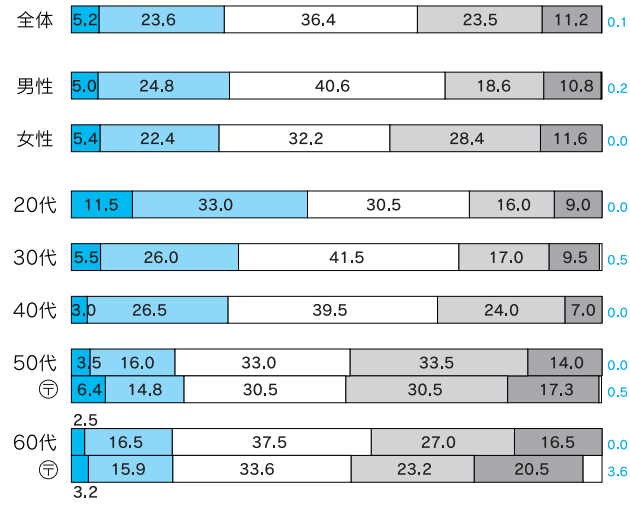


⑪仕事上のつきあいでは、個人的に親しくなることは重要ではない

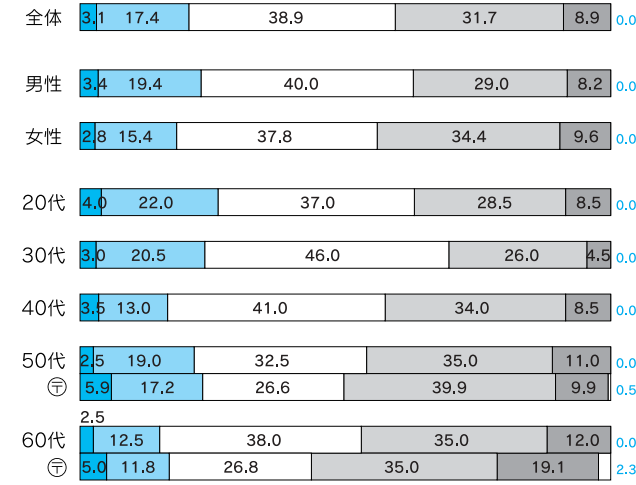


「だれも見えていなくてもルールは守る」に対して、全体の過半数が「(どちらかといえば)あてはまる」と回答し、この割合は年齢が上がるほど高くなっている。反対に、20代・30代で同意する回答者の多い項目は、「自分と関わりのある人については、なるべくいろいろなことを知りたいと思う」「人の発言や本に書かれていることに影響されて、自分の生き方を見直すことがある」「自分が他の人にもどう思われているのか気になる」「周囲の期待に応えられているか、いつも意識している」などで、若い年代ほど周囲からの影響を受けやすいことが示されている。「自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考えるほうである」に対しては、年代による差が小さく、すべての年代において約半数の回答者が「(どちらかといえば)あてはまる」と答えた。一方で、「仕事上のつきあいでは、個人的に親しくなることは重要ではない」という考え方については「(どちらかといえば)あてはまらない」が「(どちらかといえば)あてはまる」を上回る結果となっている。「感情や気分をめったに外に出さない」に同意する回答者の割合は男性が女性を大きく上回った。

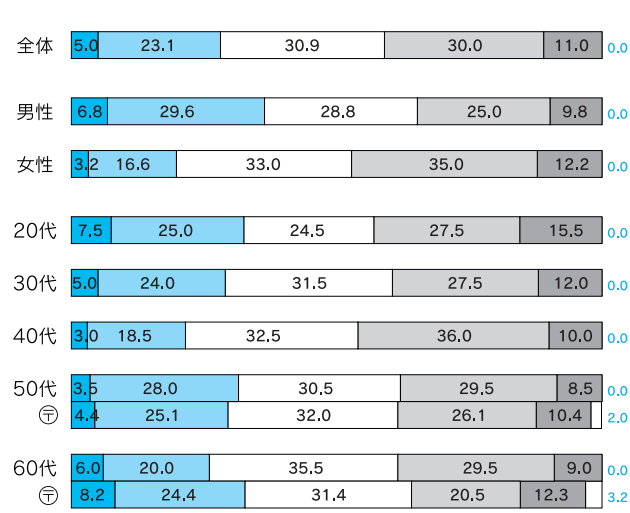
⑫周囲の期待に応えられているか、いつも意識している



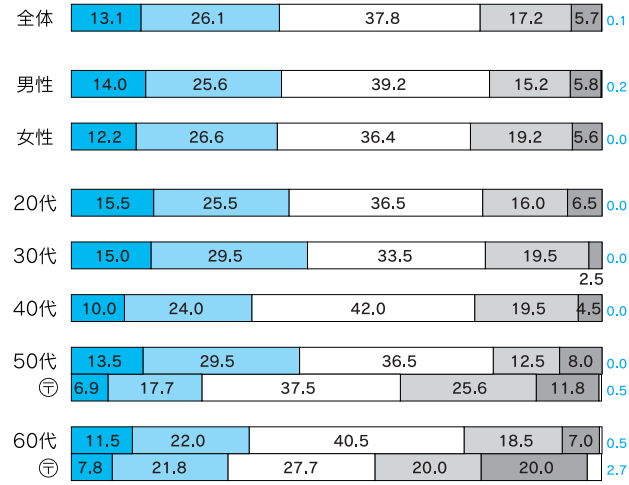
⑭自分のことに精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない



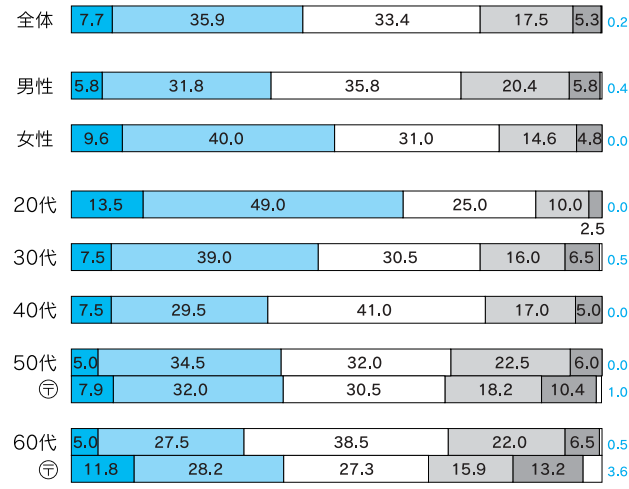
⑬感情や気分をめったに外に出さない



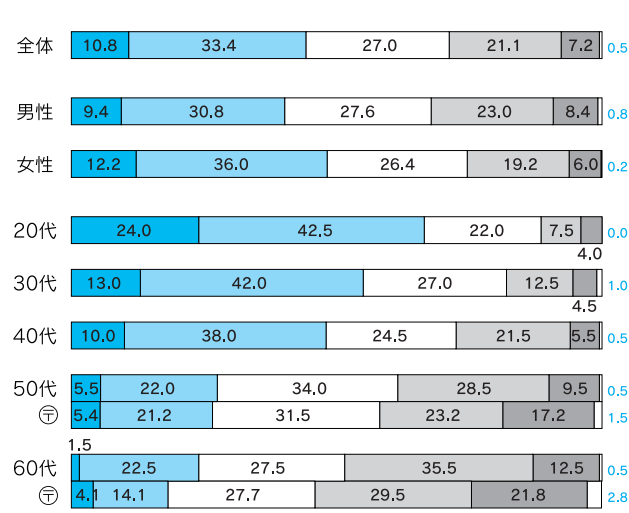
⑧一人でののが一番好きだ



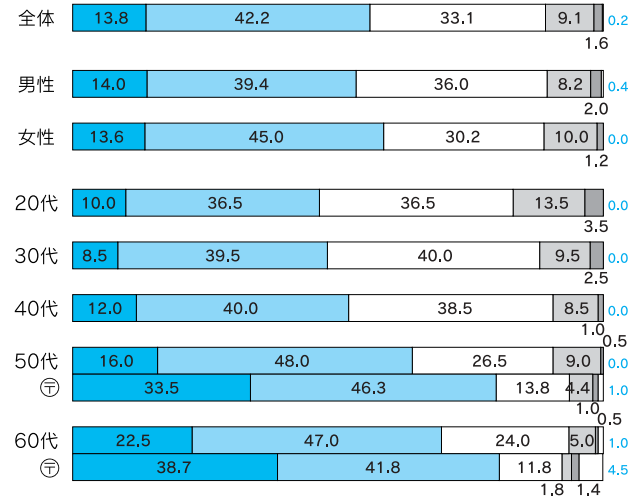
⑨人の発言や本に書かれていることなどに影響されて、自分の生き方を見直すことがある



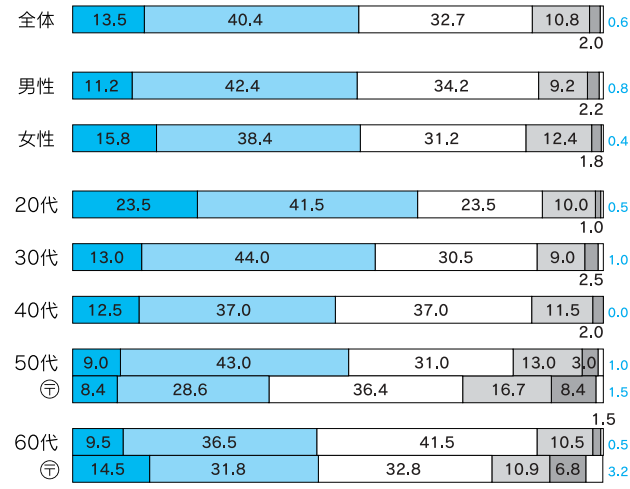
⑩自分が他の人にもどう思われているのか気になる



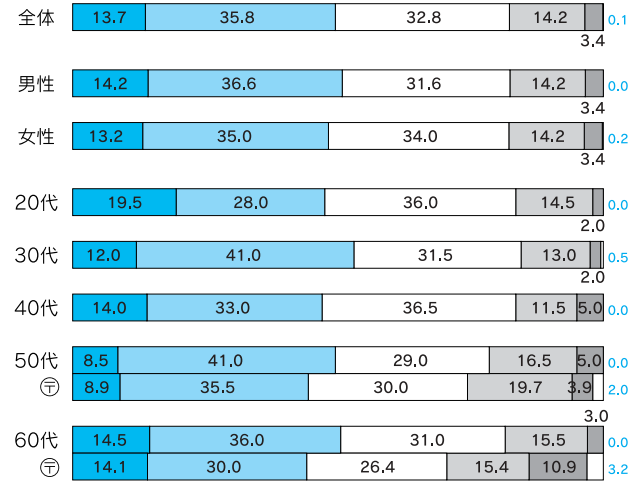
⑤だれも見えていなくてもルールは守る



⑥自分と関わりのある人については、なるべくいろいろなことを知りたいと思う



⑦自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考えるほうである

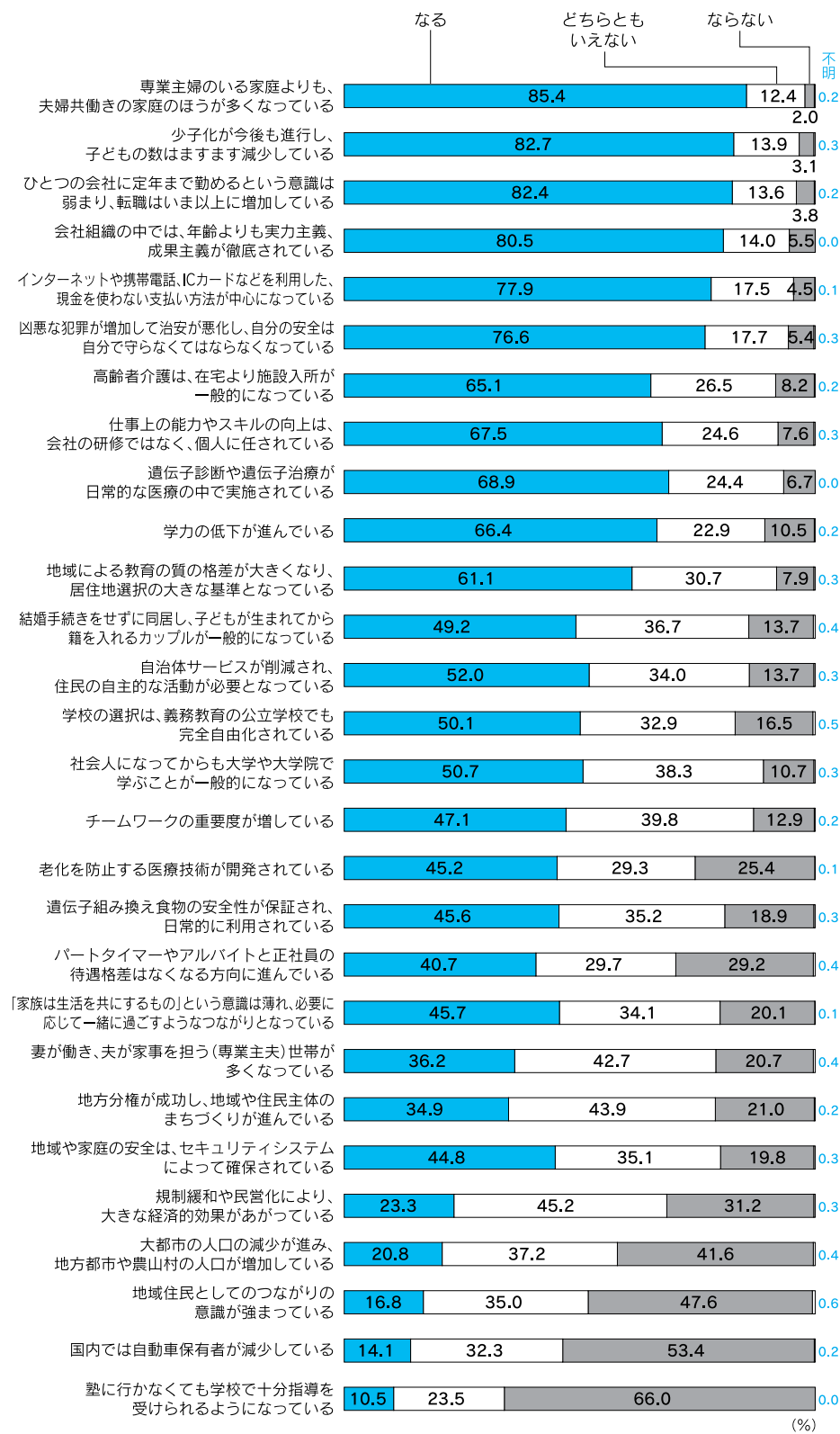


生き方、暮らし方のこれから

10年後の
日本社会像

これまで、個人の生き方や価値観、人との関わり方など、さまざまな側面から、日本人の生き方、暮らし方の「いま」を見てきた。それでは、「これから」の日本について、彼らはどのような未来を予測しているのだろうか。ここでは、日本社会の10年後に関する予測の回答から、未来の社会像を描いてみたい。

未来社会の全体像 4-1



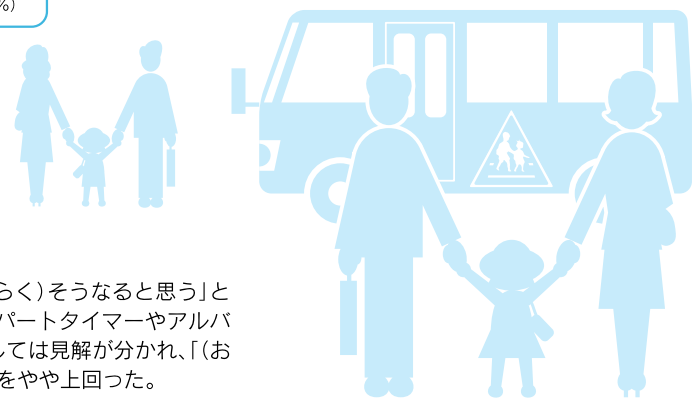
※「なる」＝「そうなると思う」「おそらくそうなると思う」計、「ならない」＝「そうならないと思う」「おそらくそうならないと思う」計

28の項目のうち、最も「(おそらく)そうなると思う」とする回答者が多かった項目は、「専業主婦のいる家庭よりも、夫婦共働きの家庭のほうが多くなっている」(85.4%)で、2番目が「少子化が今後も進行し、子どもの数はますます減少している」(82.7%)、3番目が「ひとつの会社に定年まで勤めるという意識は弱まり、転職はいま以上に増加している」(82.4%)であった。反対に、「(おそらく)そうならないと思う」とする回答者が多かった項目は「塾に行かなくても学校で十分指導を受けられるようになっている」[国内では自動車保有者が減少している]「地域住民としてのつながりの意識が強まっている」となっている。

はみだしコメント

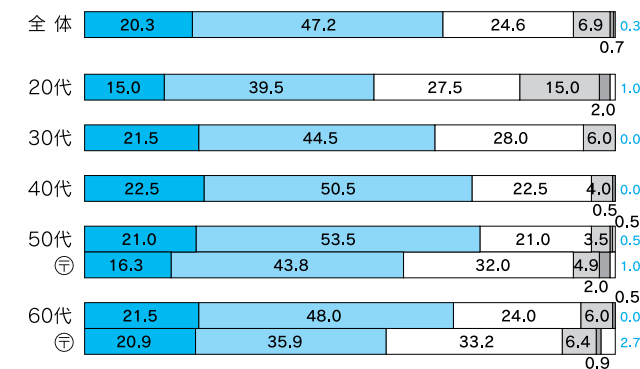
60歳を過ぎた頃、縁側で夫婦ふたりでは一つとお茶を飲むのが夢で、それにはある程度、経済的な余裕が必要ですね。(29歳、女性)

「仕事」の未来 4-2

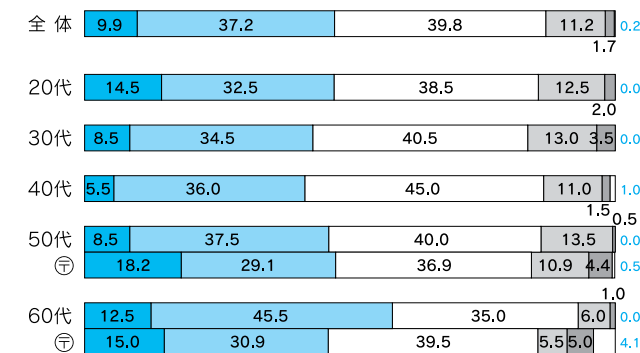


組織のあり方や働き方の未来について予測を求めたところ、「夫婦共働きの家庭の増加」「転職の増加」「実力主義の徹底」について、どの年代においても8割前後の回答者が「(おそらく)そうなると思う」と予測した。「仕事上の能力やスキルの向上は個人に任されている」に対して「(おそらく)そうなると思う」とする割合は全体の約7割で、20代でやや低い結果となっている。また、「チームワークの重要度が増している」に対して「(おそらく)そうなると思う」とする割合も全体の5割近くを占めていることが注目される。「パートタイマーやアルバイトと正社員の待遇格差はなくなる方向に進んでいる」に対しては見解が分かれ、「(おそらく)そうなると思う」が「(おそらく)そうならないと思う」をやや上回った。

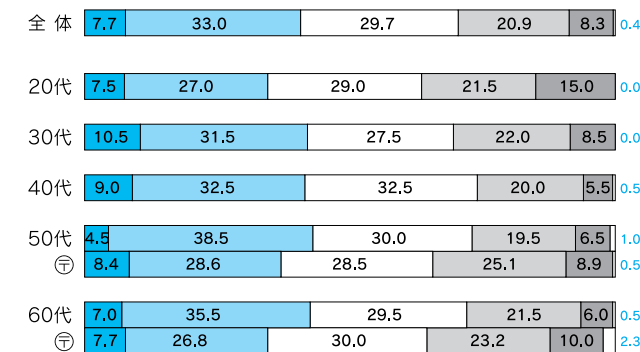
④仕事上の能力やスキルの向上は、会社の研修ではなく、個人に任されている



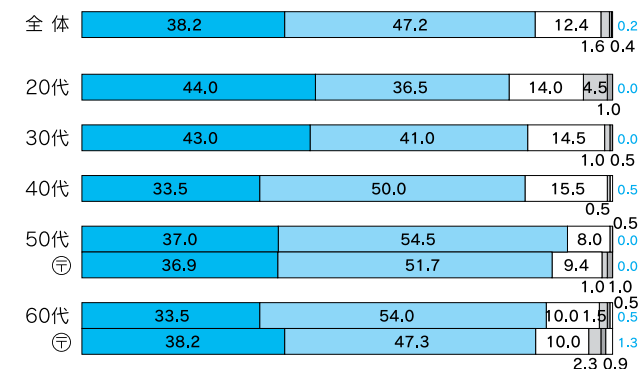
⑤チームワークの重要度が増している



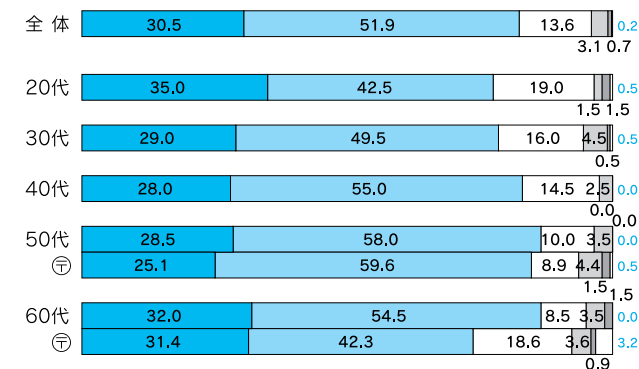
⑥パートタイマーやアルバイトと正社員の待遇格差はなくなる方向に進んでいる



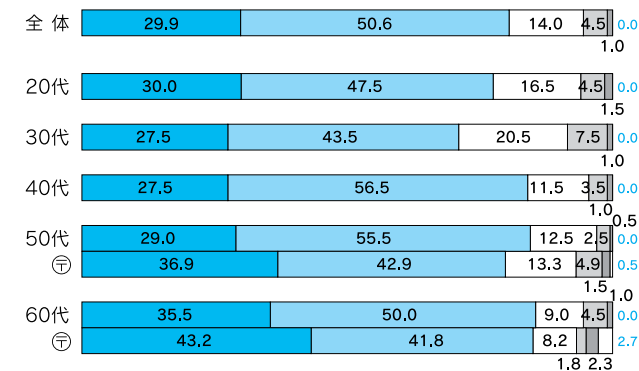
①専業主婦のいる家庭よりも、夫婦共働きの家庭のほうが多くなっている



②ひとつの会社に定年まで勤めるという意識は弱まり、転職はいま以上に増加している

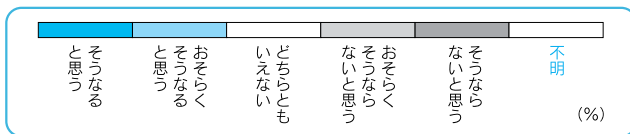


③会社組織の中では、年齢よりも実力主義、成果主義が徹底されている



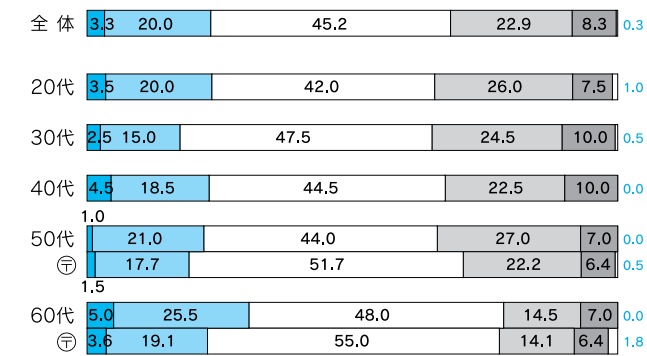
はみだしコメント

息子には農業は継がせたくない。重労働の上に経済的にも安定していないから。子どもにはもっと安定した生活を望む。(38歳、女性)

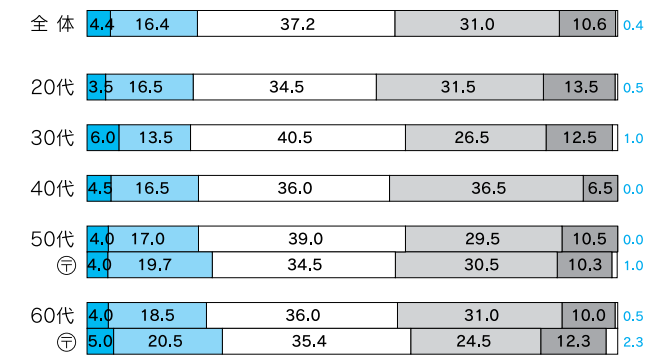


地域社会の未来について予測を求めたところ、全体の7割を超える回答者が「凶悪な犯罪が増加して治安が悪化し、自分の安全は自分で守らなくてはならなくなっている」と予測し、過半数が「自治体サービスが削減され、住民の自主的な活動が必要となっている」と予測した（「そうなると思う」「おそらくそうなると思う」計）。一方で、規制緩和による経済効果や、地方都市や農山村の人口の増加については「（おそらく）そうならないと思う」が「（おそらく）そうなると思う」を上回り、現状を大きく変えるような変化は描かれていないことが読みとれる。「地域住民としてのつながりの意識が強まっている」に対しては全体の半数近くが「（おそらく）そうならないと思う」と回答した。

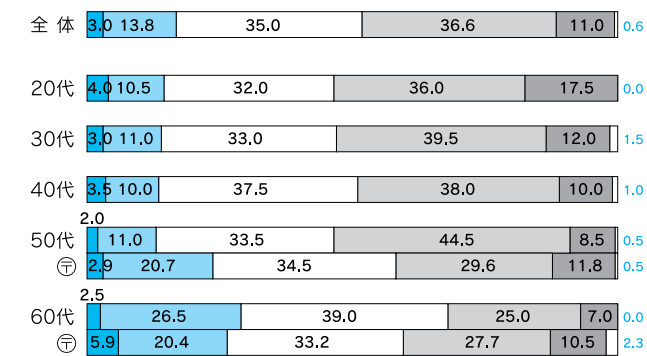
④規制緩和や民営化により、大きな経済的効果があがっている



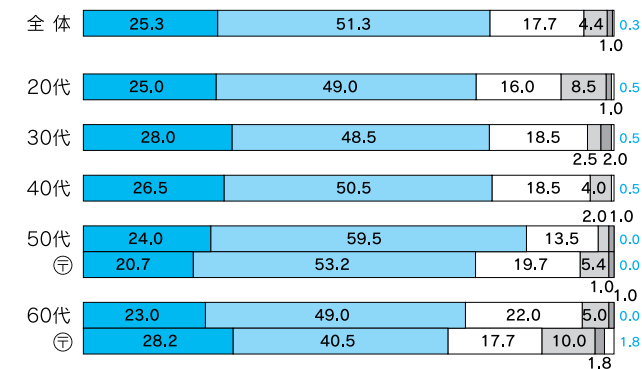
⑤大都市の人口の減少が進み、地方都市や農山村の人口が増加している



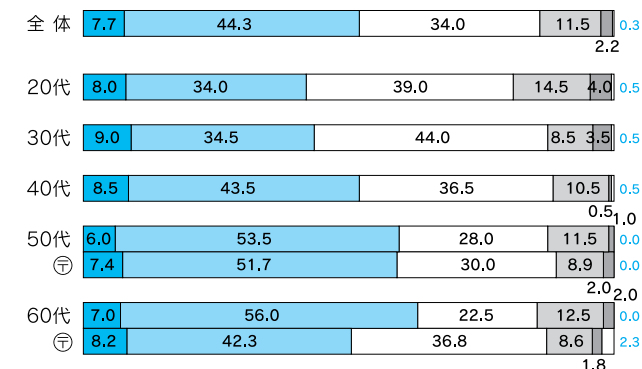
⑥地域住民としてのつながりの意識が強まっている



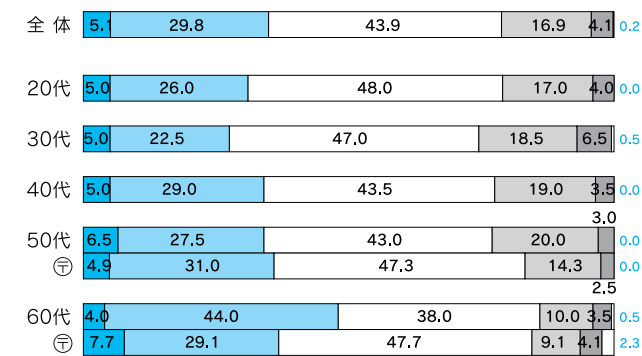
①凶悪な犯罪が増加して治安が悪化し、自分の安全は自分で守らなくてはならなくなっている



②自治体サービスが削減され、住民の自主的な活動が必要となっている

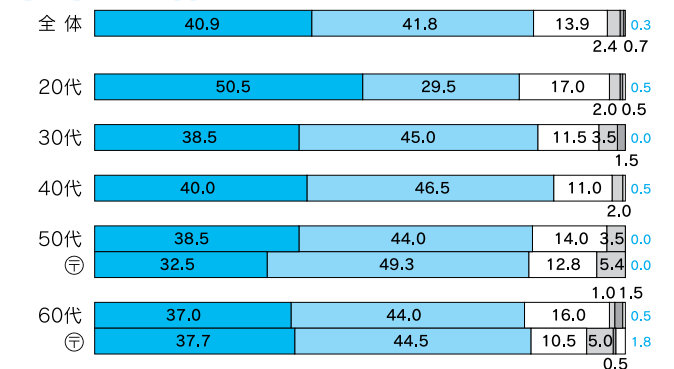


③地方分権が成功し、地域や住民主体のまちづくりが進んでいる

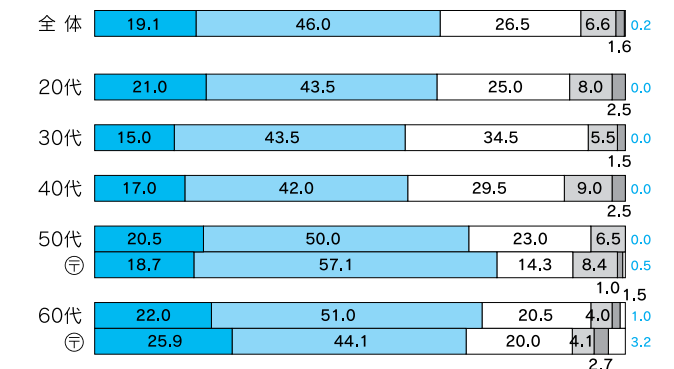


結婚や子育て、介護など、「家族」に関わるさまざまな側面について予測を求めた結果、すべての年代で、8割以上の回答者が「少子化が今後も進行し、子どもの数はますます減少している」と予測した（「そうなると思う」「おそらくそうなると思う」計）。また、全体の6割を超える回答者が「高齢者介護は、在宅より施設入所が一般的になっている」と予測し、その割合はとくに50代・60代で高くなっている。「結婚手続きをせずに同居し、子どもが生まれてから籍を入れるカップルが一般的になっている」「『家族は生活を共にするもの』という意識は薄れ、必要に応じて一緒に過ごすようなつながりとなっている」「妻が働き、夫が家事を担う世帯が多くなっている」についても、「（おそらく）そうなると思う」が「（おそらく）そうならないと思う」を上回り、「家族」のあり方が多様化していく未来像が描かれている。

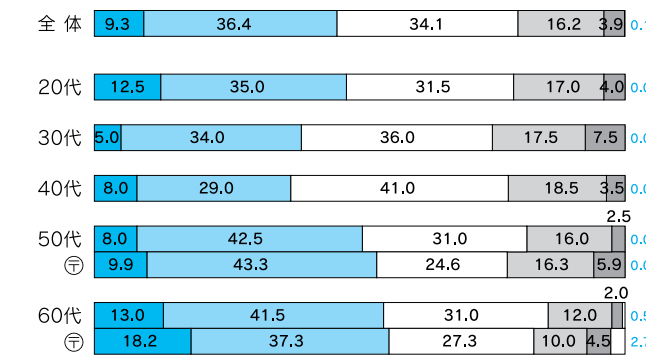
①少子化が今後も進行し、子どもの数はますます減少している



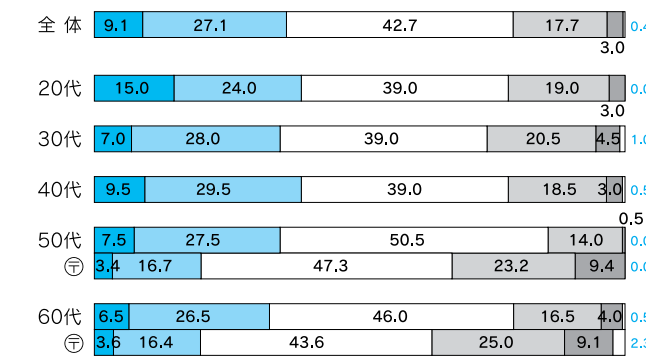
②高齢者介護は、在宅より施設入所が一般的になっている



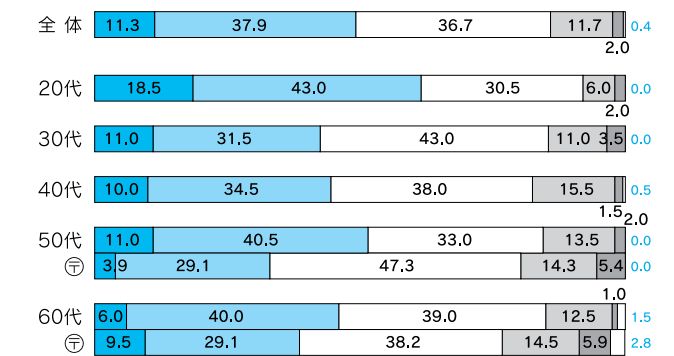
④「家族は生活を共にするもの」という意識は薄れ、必要に応じて一緒に過ごすようなつながりとなっている

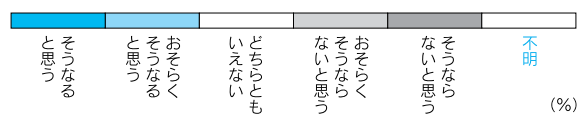


⑤妻が働き、夫が家事を担う（専業主夫）世帯が多くなっている



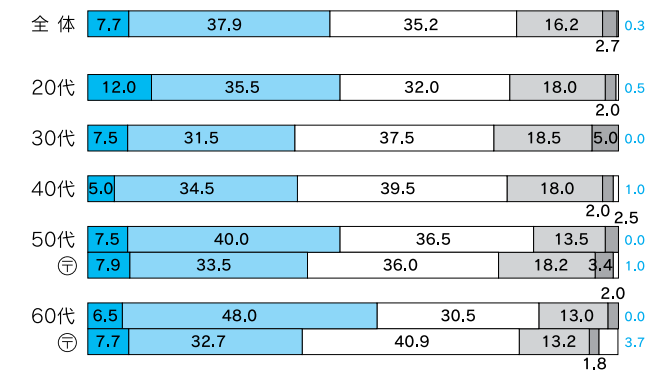
③結婚手続きをせずに同居し、子どもが生まれてから籍を入れるカップルが一般的になっている



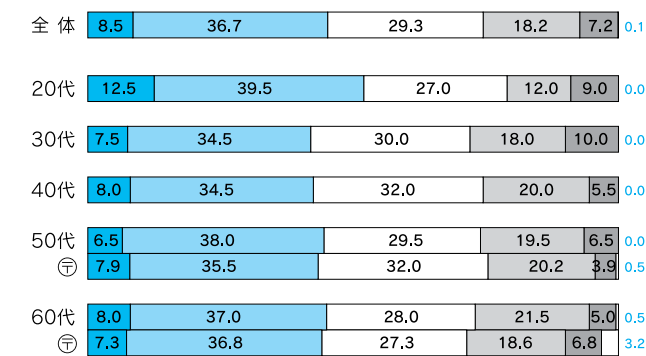


科学・技術や産業の未来について尋ねたところ、「インターネットや携帯電話、ICカードなどを利用した、現金を使わない支払い方法が中心になっている」「遺伝子診断や遺伝子治療が日常的な医療の中で実施されている」のように、今日すでにその兆しが見られるものについては、7割前後の回答者が「(おそらく)そうなると思う」と予測した。一方で、「遺伝子組み換え食物の安全性が保証され、日常的に利用されている」「老化を防止する医療技術が開発されている」と予測する回答者は全体の4割強にとどまった。「国内では自動車保有者が減少している」という予測に対しては「(おそらく)そうならないと思う」が5割を超える結果となった。

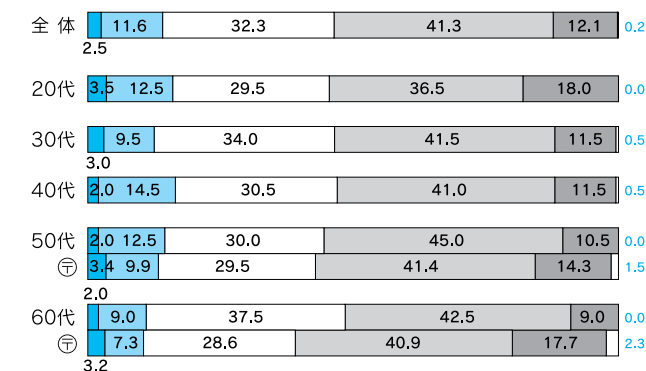
④ 遺伝子組み換え食物の安全性が保証され、日常的に利用されている



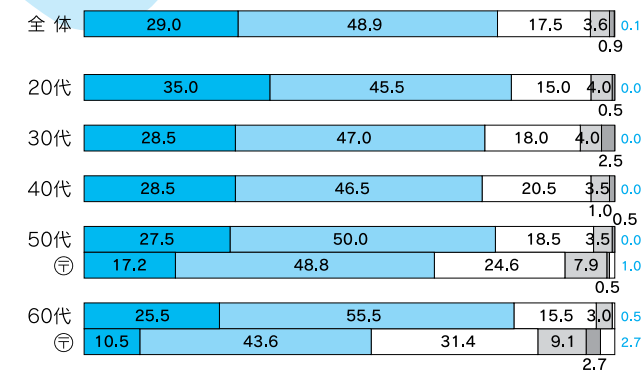
⑤ 老化を防止する医療技術が開発されている



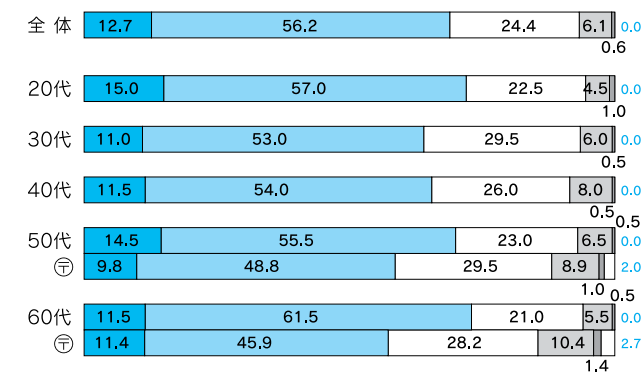
⑥ 国内では自動車保有者が減少している



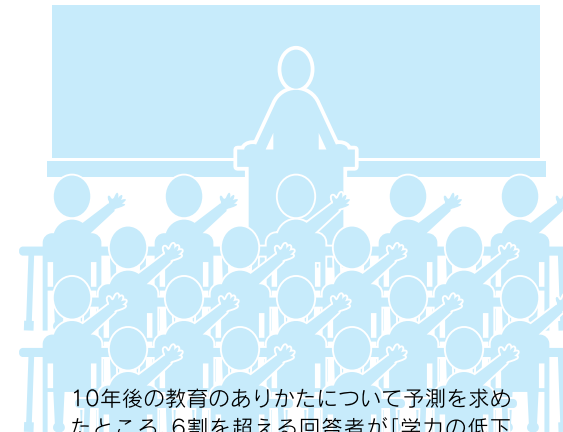
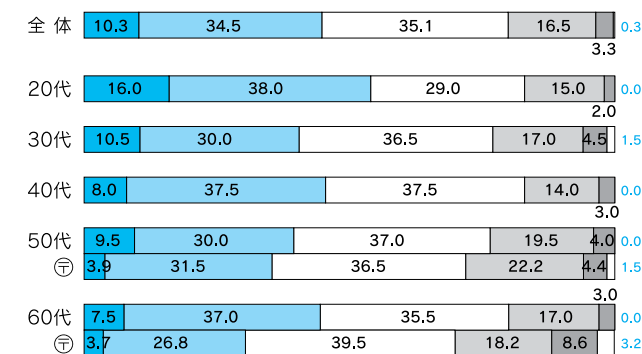
① インターネットや携帯電話、ICカードなどを利用した、現金を使わない支払い方法が中心になっている



② 遺伝子診断や遺伝子治療が日常的な医療の中で実施されている



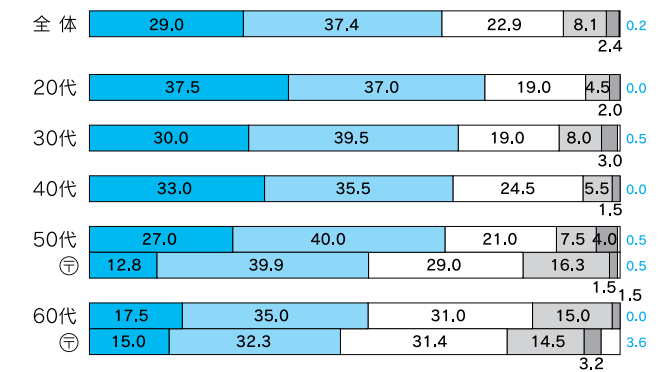
③ 地域や家庭の安全は、セキュリティシステムによって確保されている



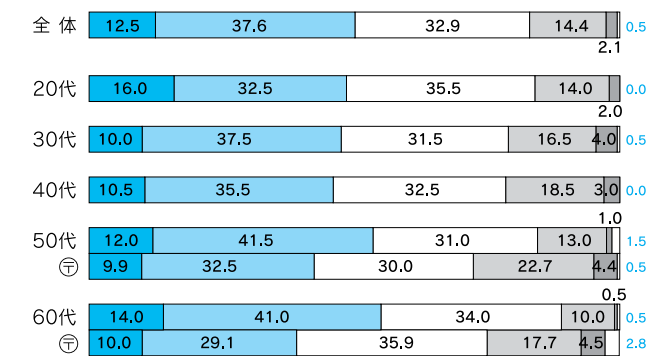
10年後の教育のありかたについて予測を求めたところ、6割を超える回答者が「学力の低下が進んでいる」と予測した（「そうなると思う」「おそらくそうなると思う」計）。さらに、「塾に行かなくても学校で十分指導を受けられるようになっている」と予測した回答者は全体の1割にとどまり、「教育」の未来に対する不安感が浮き彫りになっている。また、「義務教育の公立学校でも学校の選択が自由化される」「地域による教育の質の格差が大きくなり、居住地選択の大きな基準となっている」などの予測も5割を超え、「学ぶ環境」が選択し、獲得していくものとして意識されていることがわかる。社会人の学びについては、5割を超える回答者が「社会人になってからも大学や大学院で学ぶことが一般的になっている」と予測した。



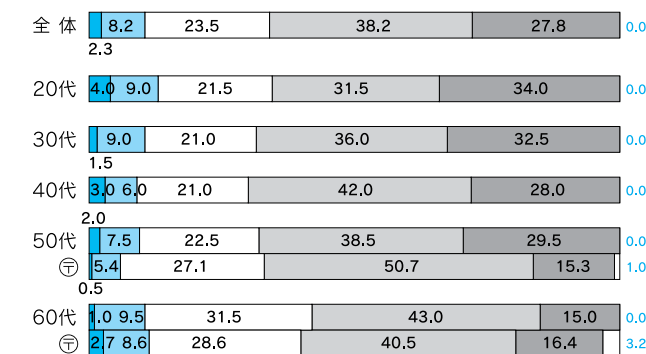
① 学力の低下が進んでいる



④ 学校の選択は、義務教育の公立学校でも完全自由化されている



⑤ 塾に行かなくても学校で十分指導を受けられるようになっている



⑥ 社会人になってからも大学や大学院で学ぶことが一般的になっている

